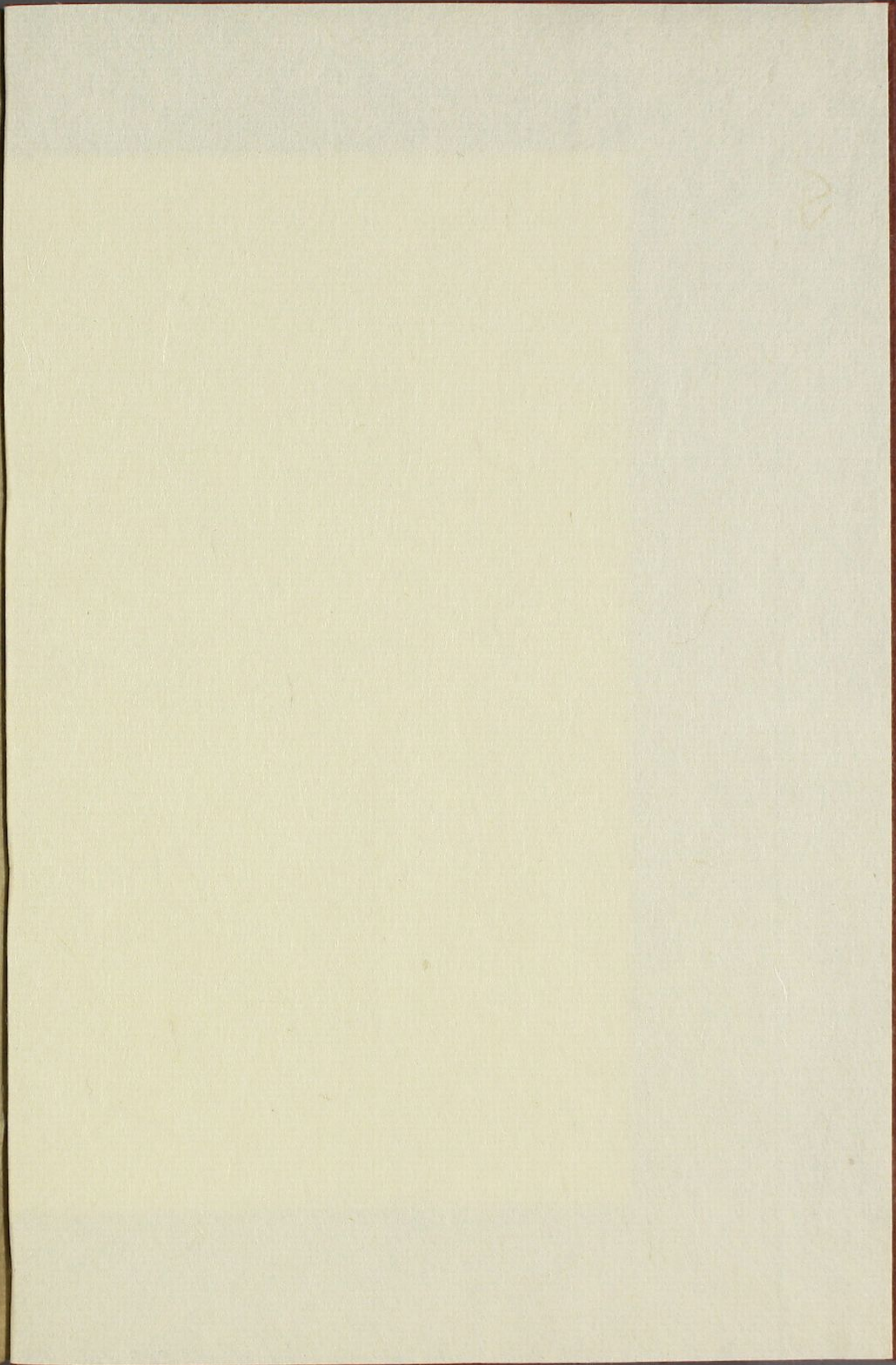
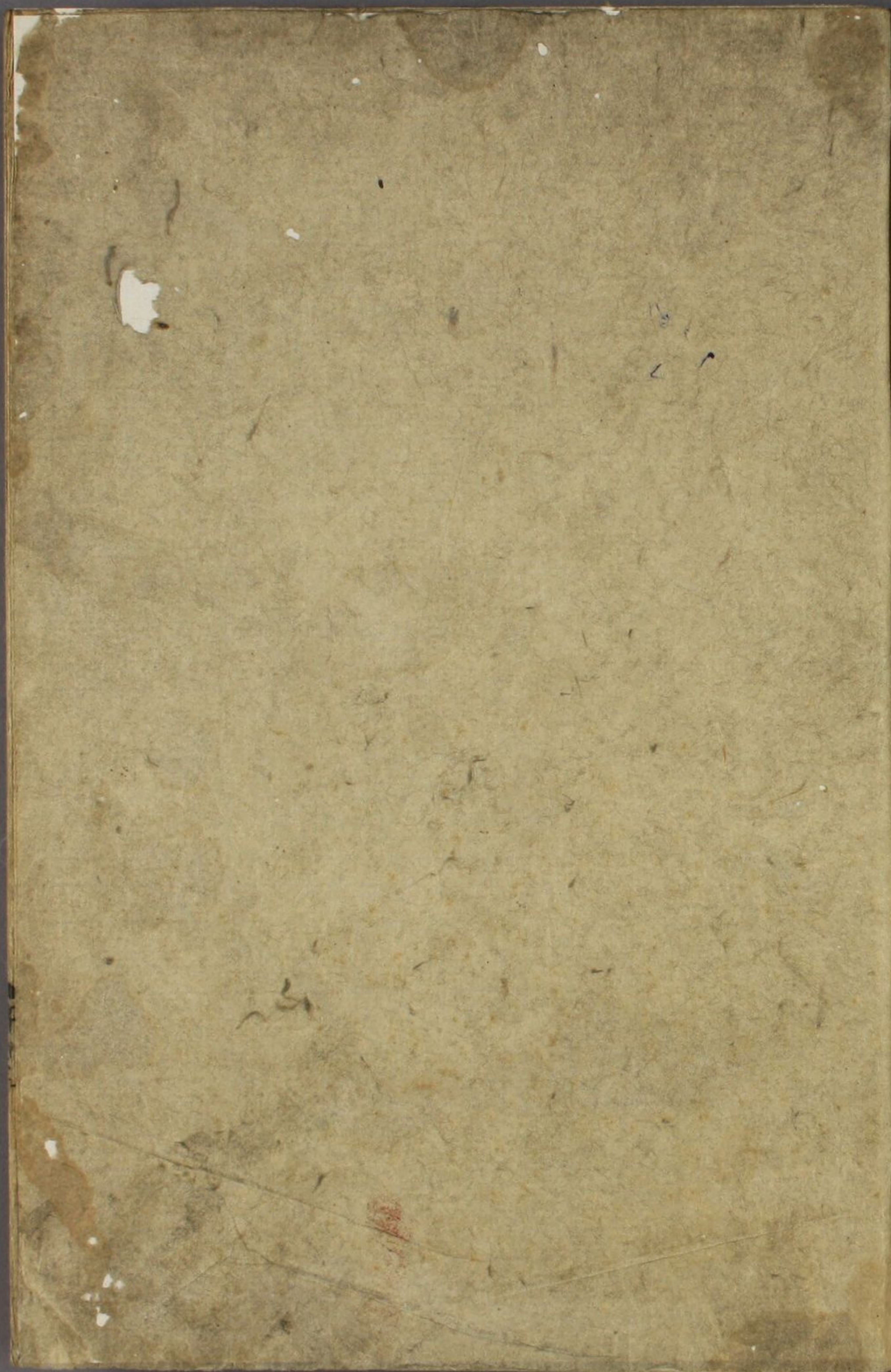
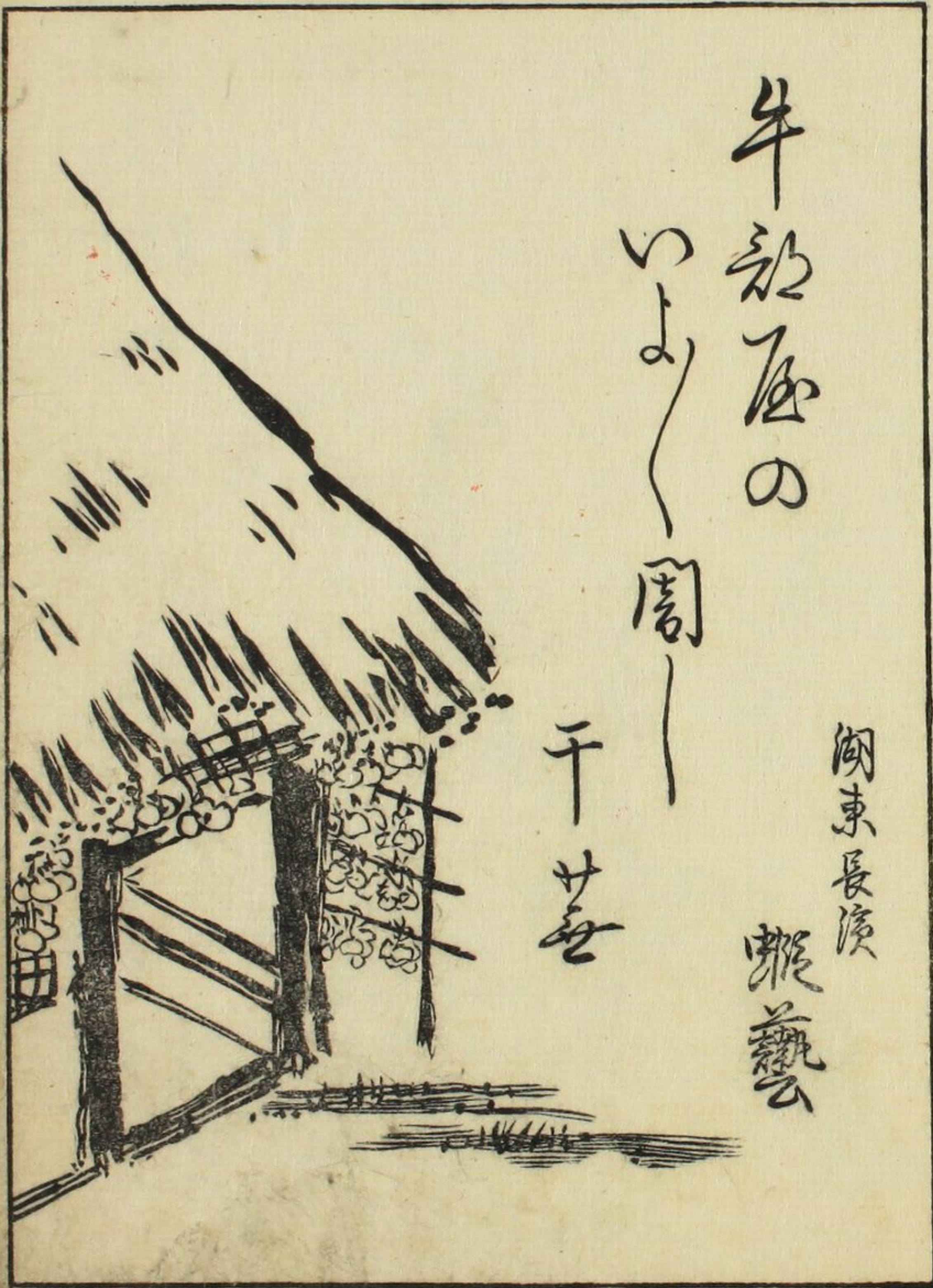


中村俊定文庫
文庫 18
336







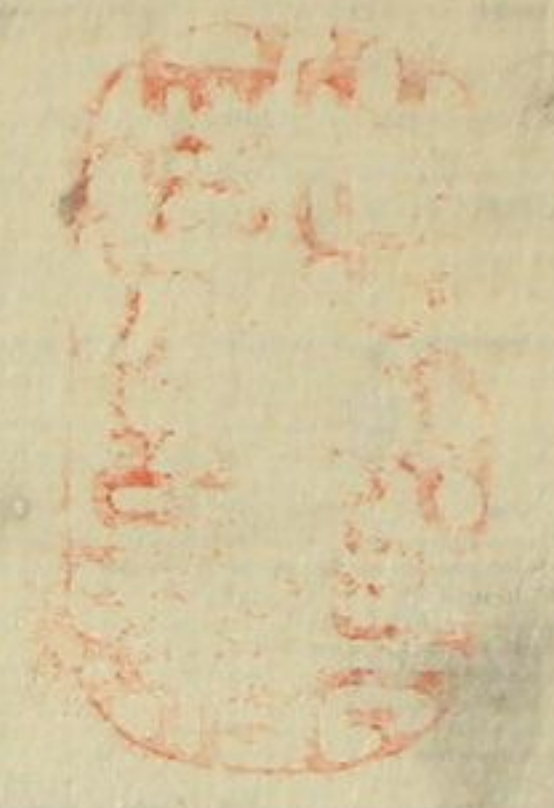
牛形屋の

いよ〜周

干々

湖東長濱

齋藤云





葎也

麻也

葉也

花也

洛

里卜



紅梅也

蒼白也

湖東長濱女

加葉

火繩火此

散て死

花躑躅

一浮

東武永我庵



積心

福

驚

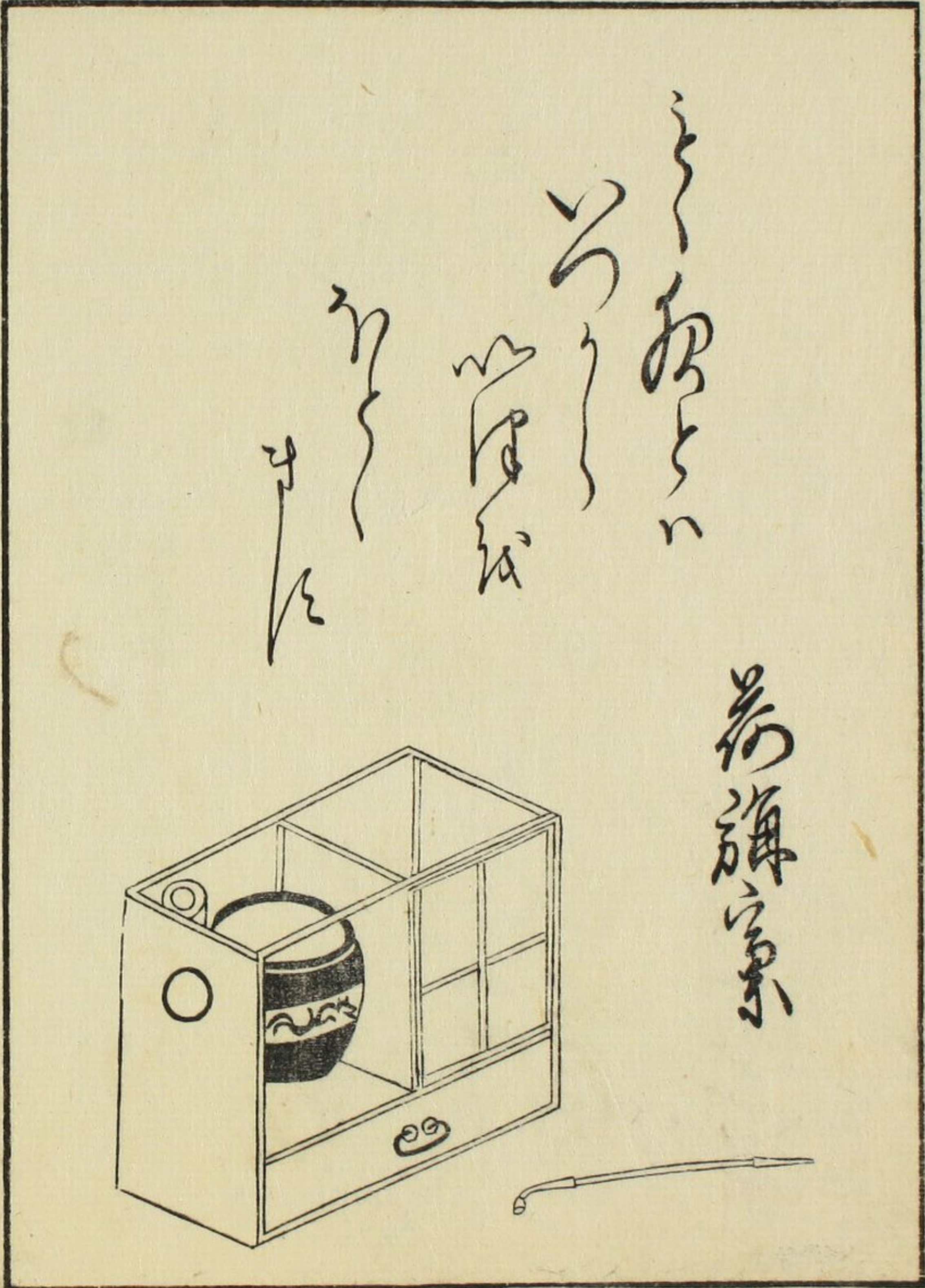
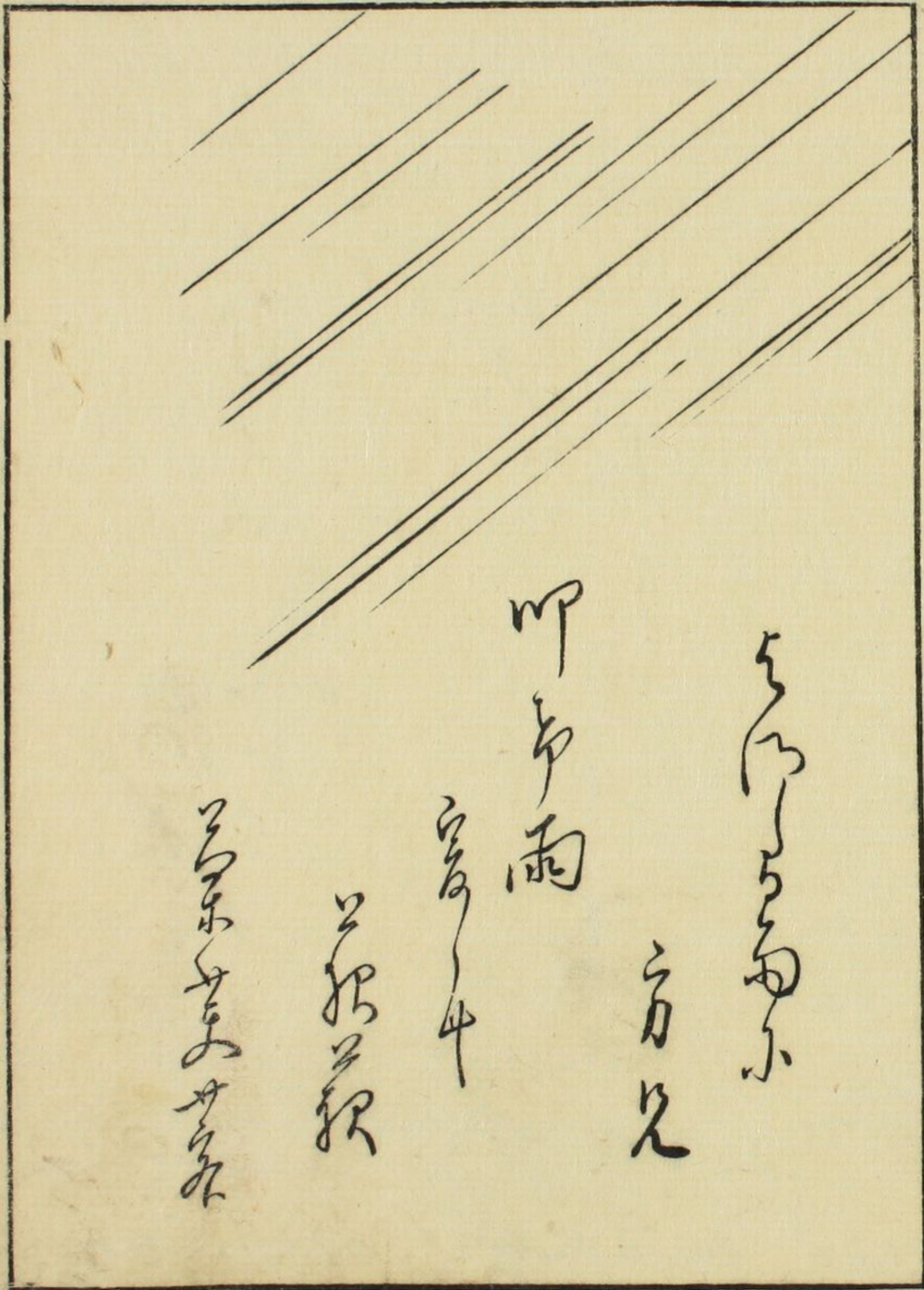
雞此

富貴外

秋田溪

東

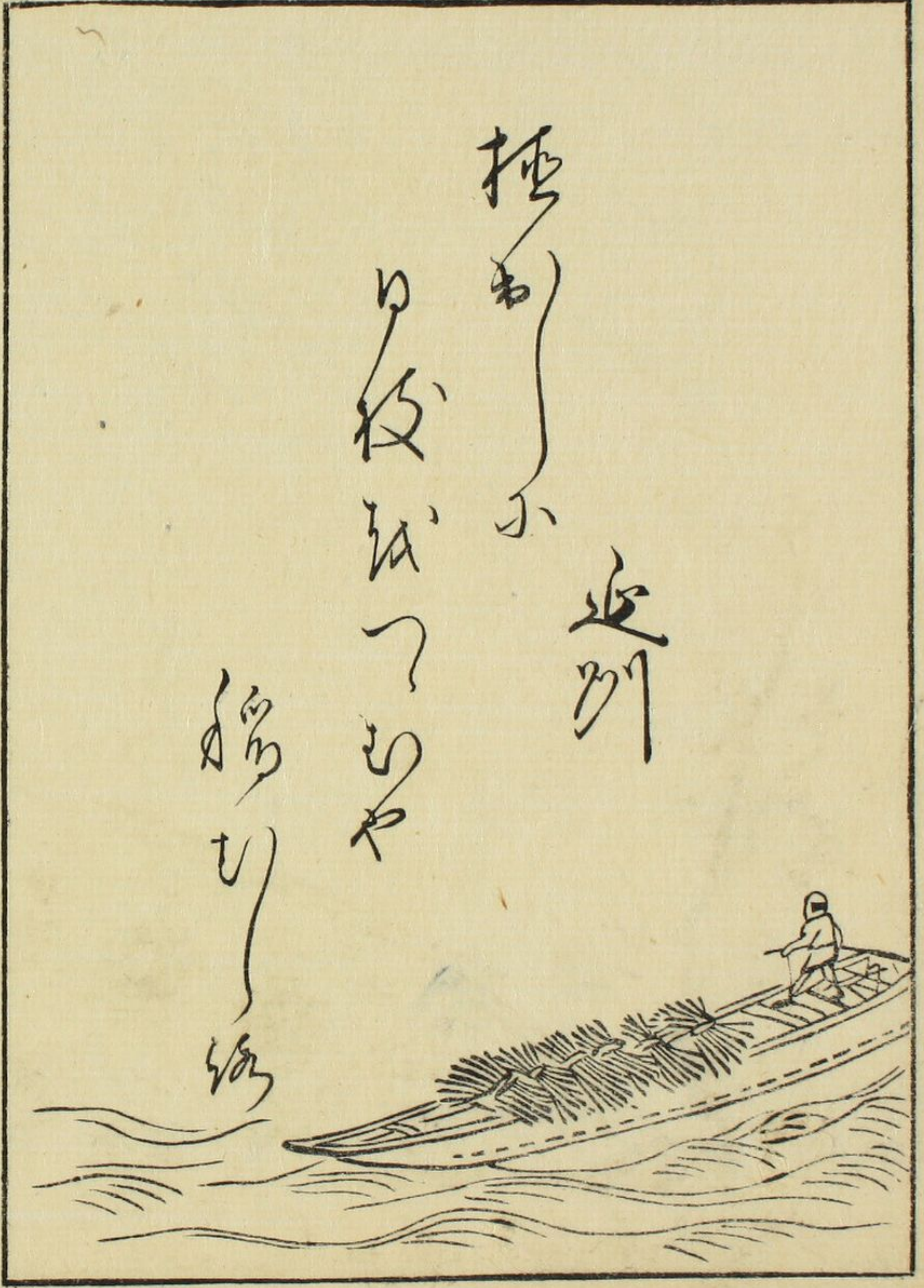






子孫

かんたんな
 道とておと
 行きまふ



近別

極制

り枝はつらや

船り



一
八
や

あ
る
先

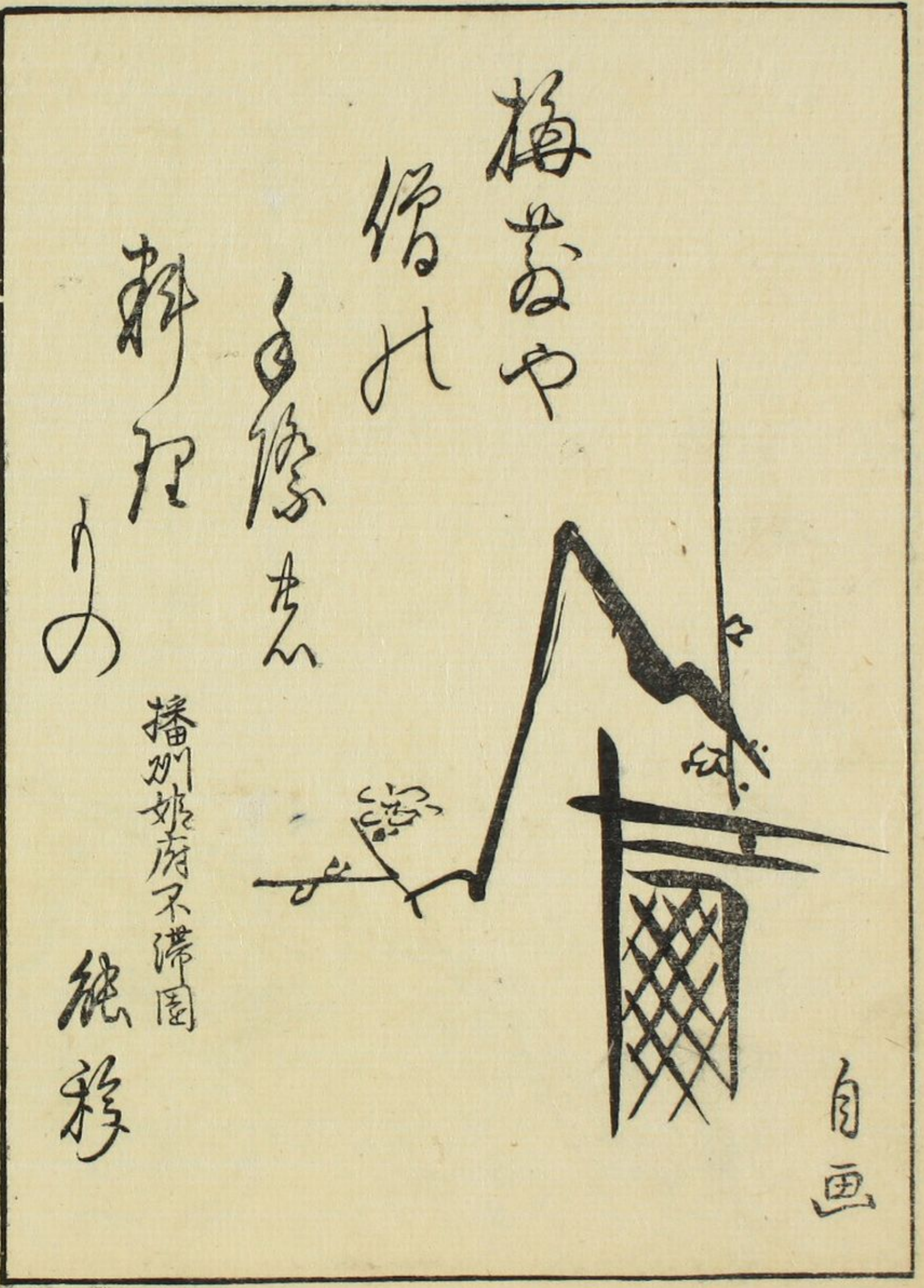
か
の
ま
ま

股
の
ま
ま

昆陽
里本館

江戸

画



梅
あ
や

借
れ

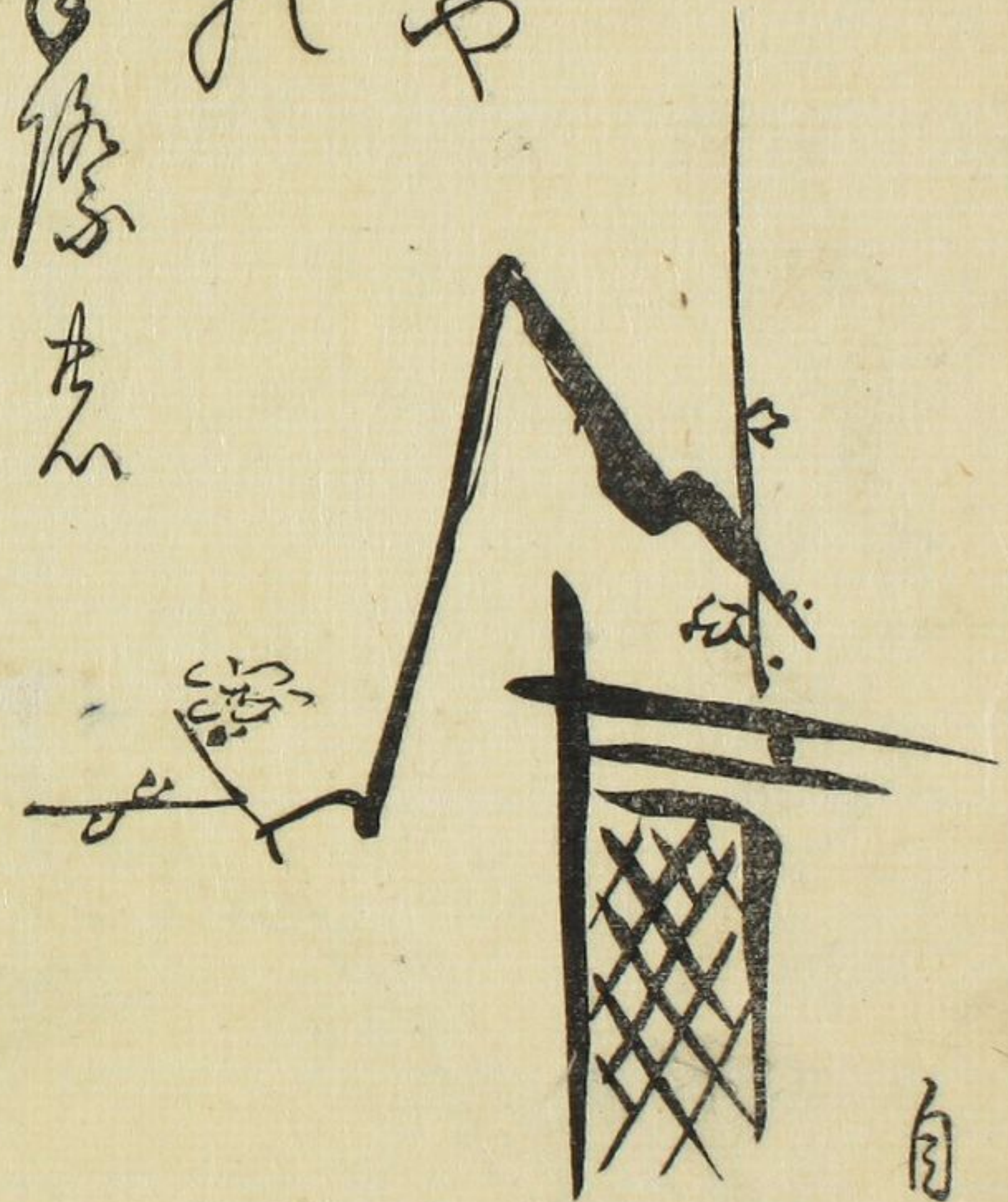
白
線
志

軒
下

の

播州姫府不滞園

徳
裕



自
画

子

猿
沢の

名紙

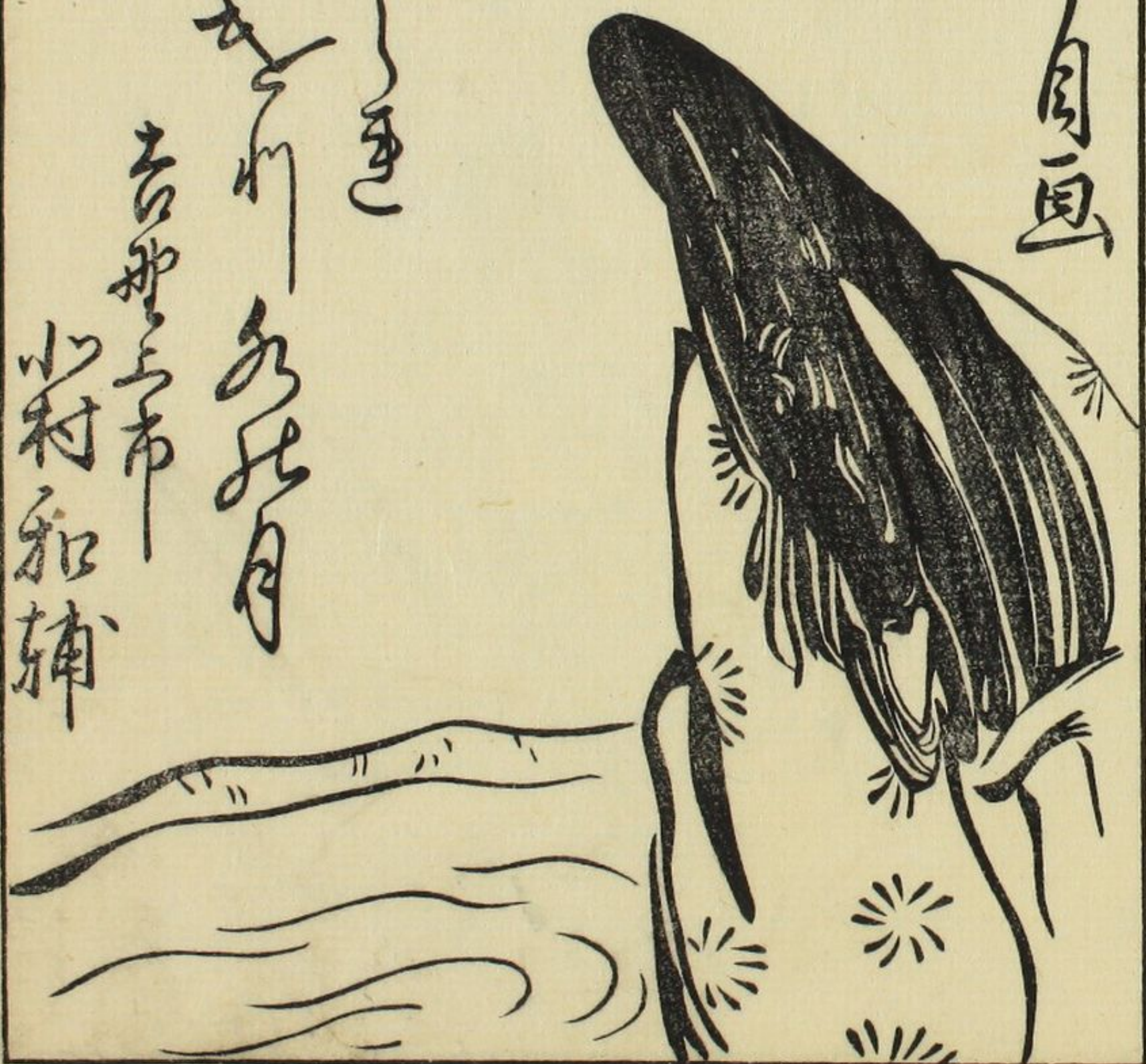
少

女
お月

吉野市

小村和輔

自画



子

も
云々

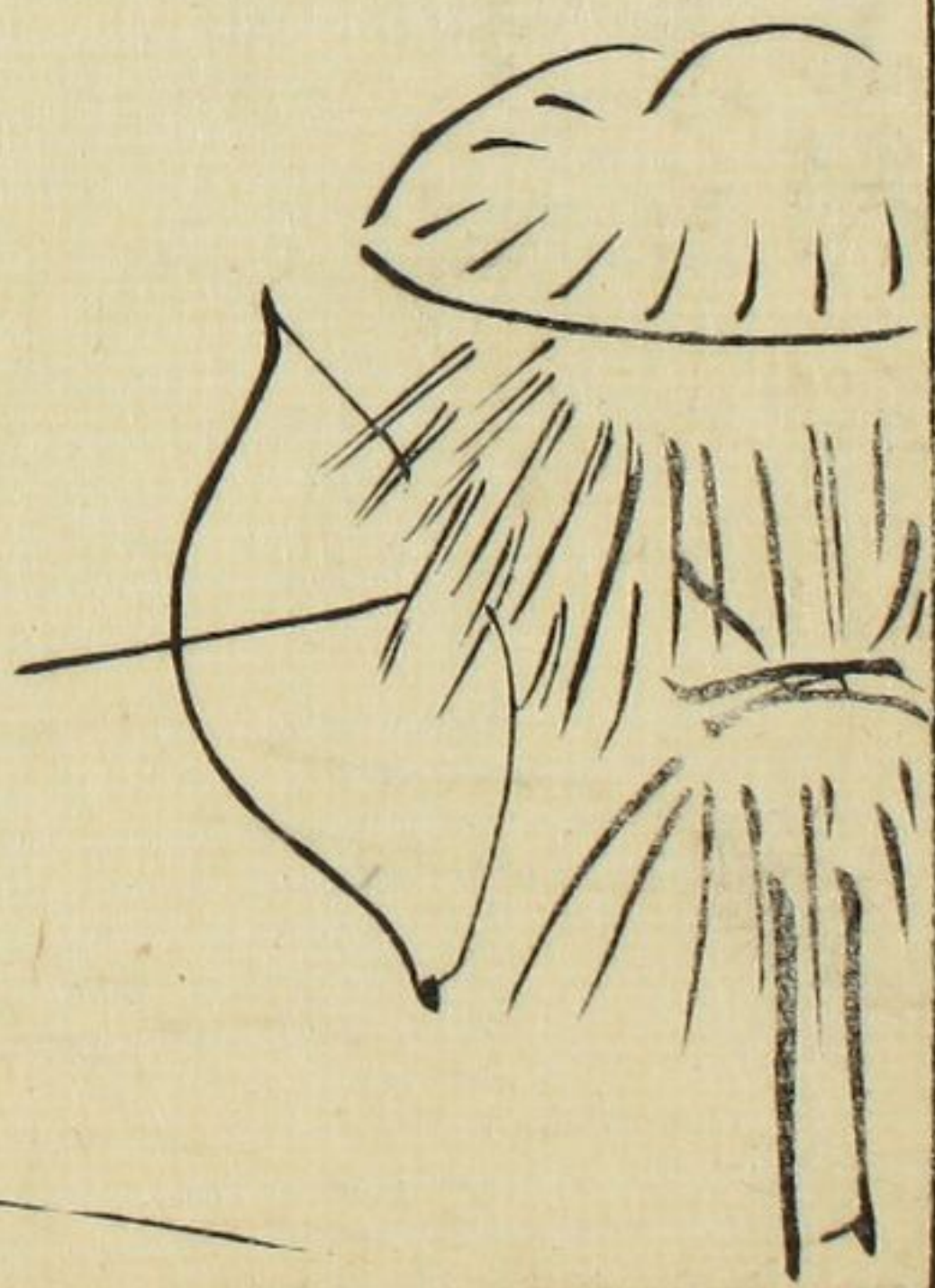
人
お月

桑山子一郎

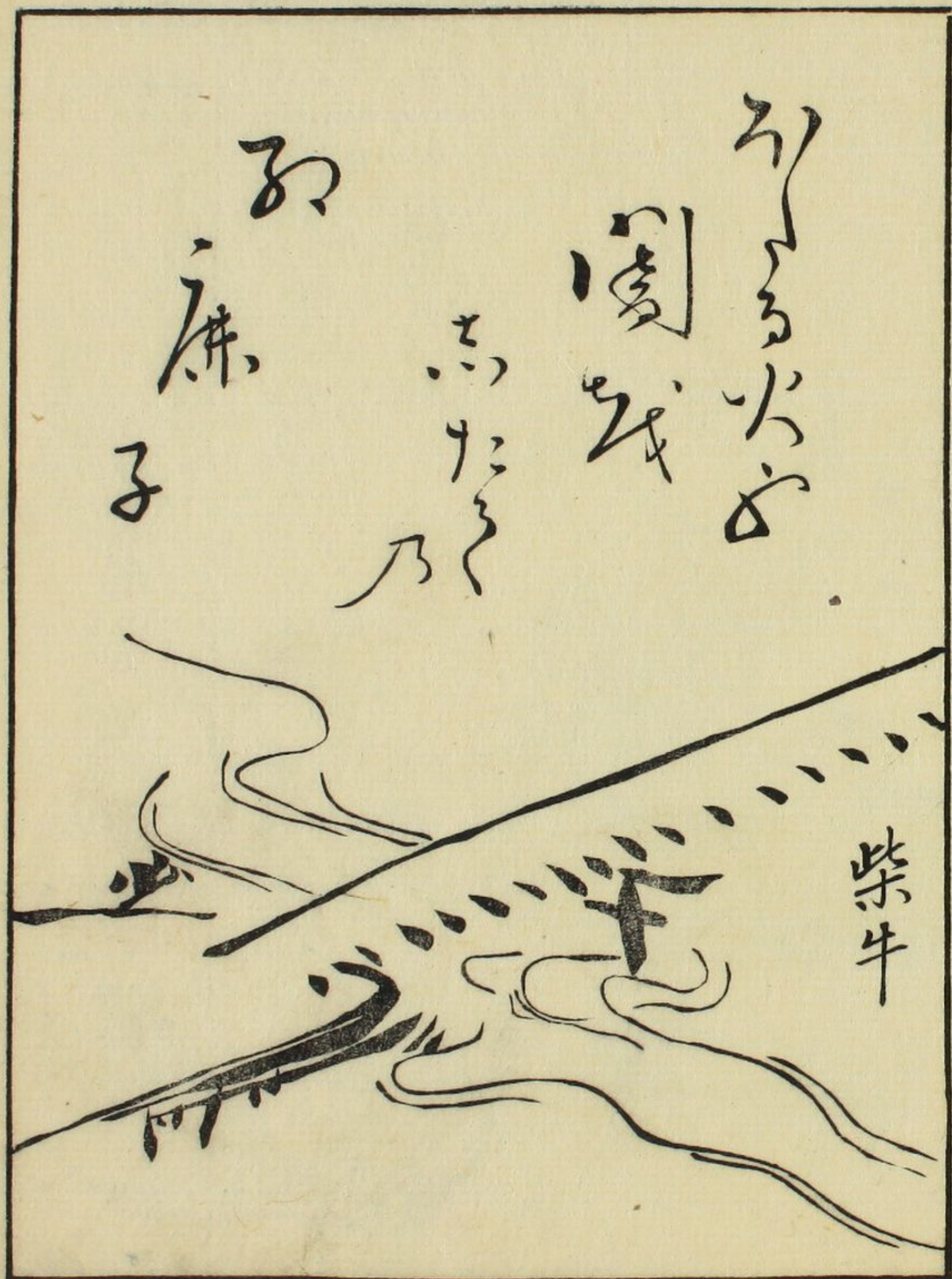
目録
吉野市
和輔

鳴

鳴



和輔



子麻子
 乃
 園
 火
 子

柴牛



風
 中
 の

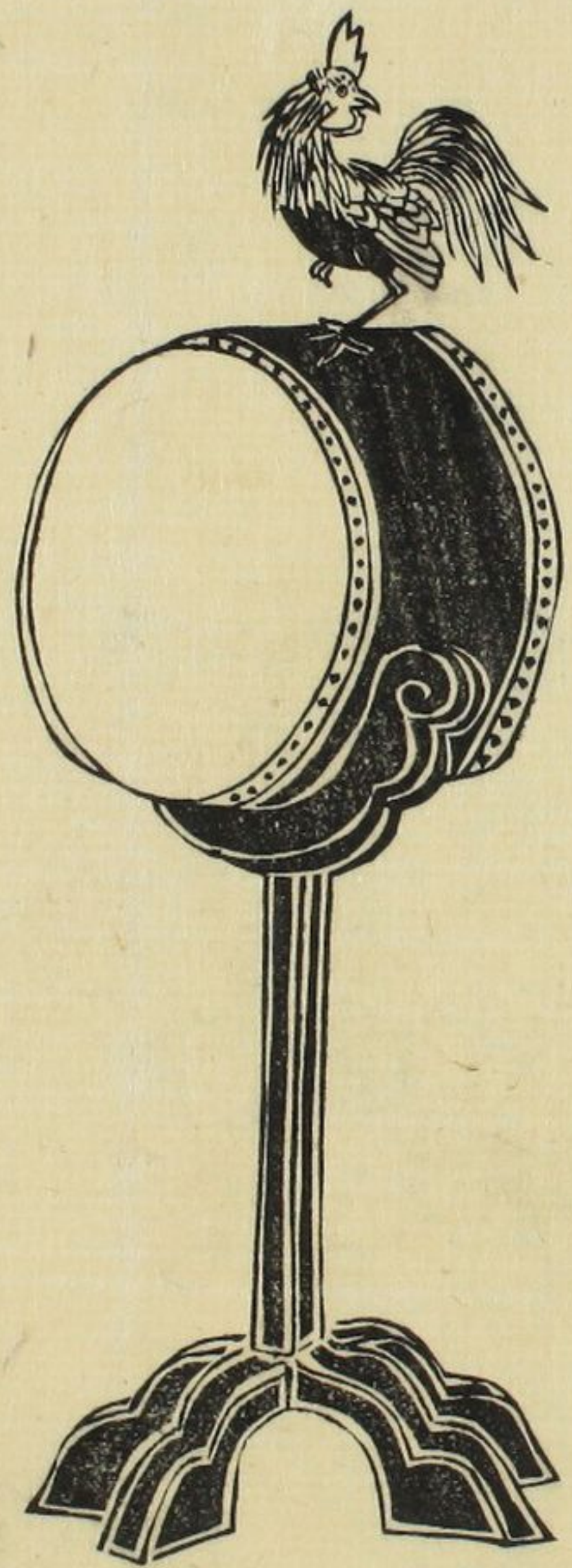
延
 さ
 が
 急

去
 せ

百
 六
 十

燕
 雀

前
 後



異心さ月也

出心女々々

熊野木元

吳鳥

陣之扇

下九



羊瓢舎

子周

物脊中

世卿

老翁

爪

之山流

熊野木元

川瀬氏画

下九

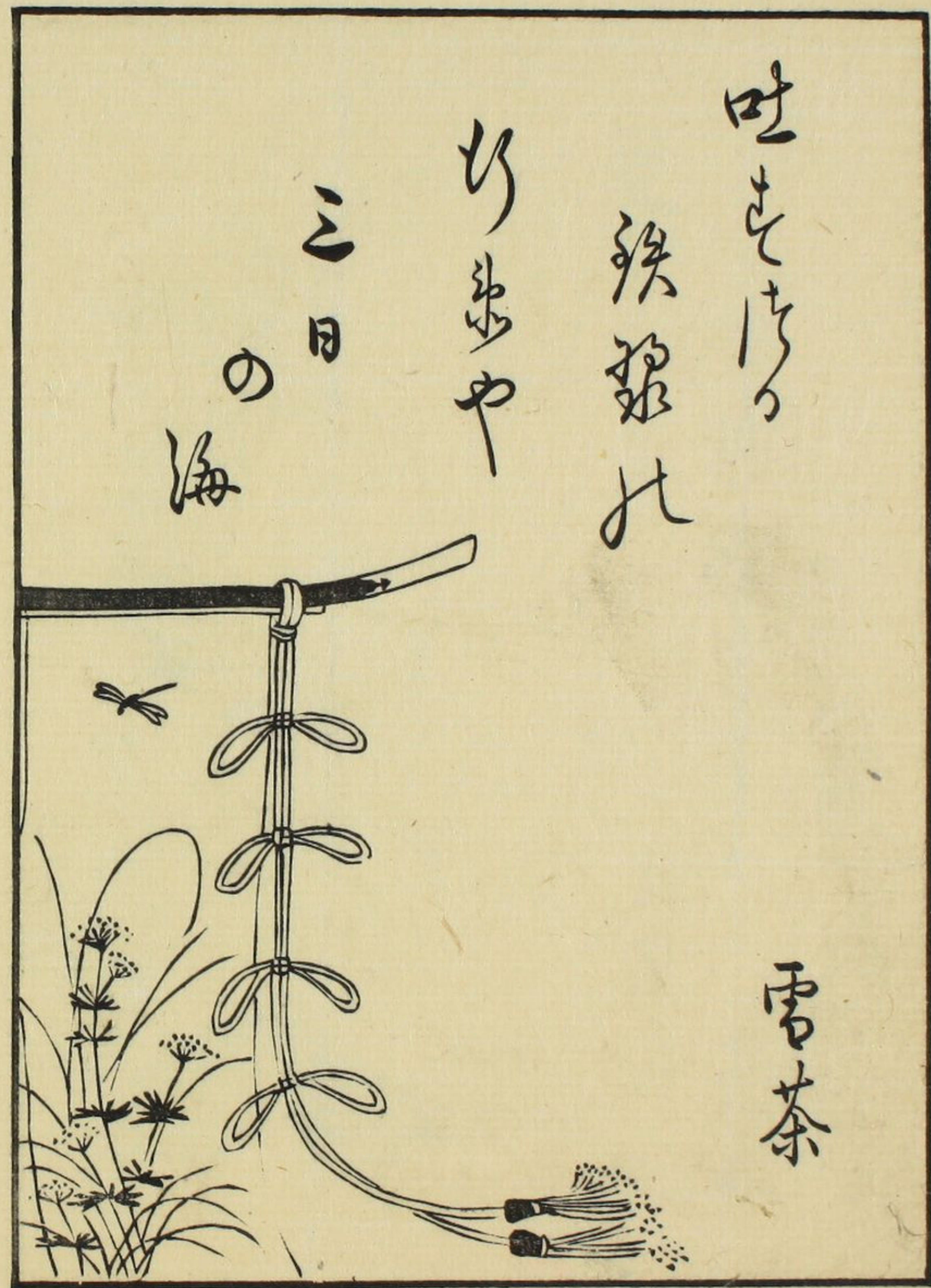


鳴子へ
 心と出ぬれ

本意外

有馬

三徳



時を待てる

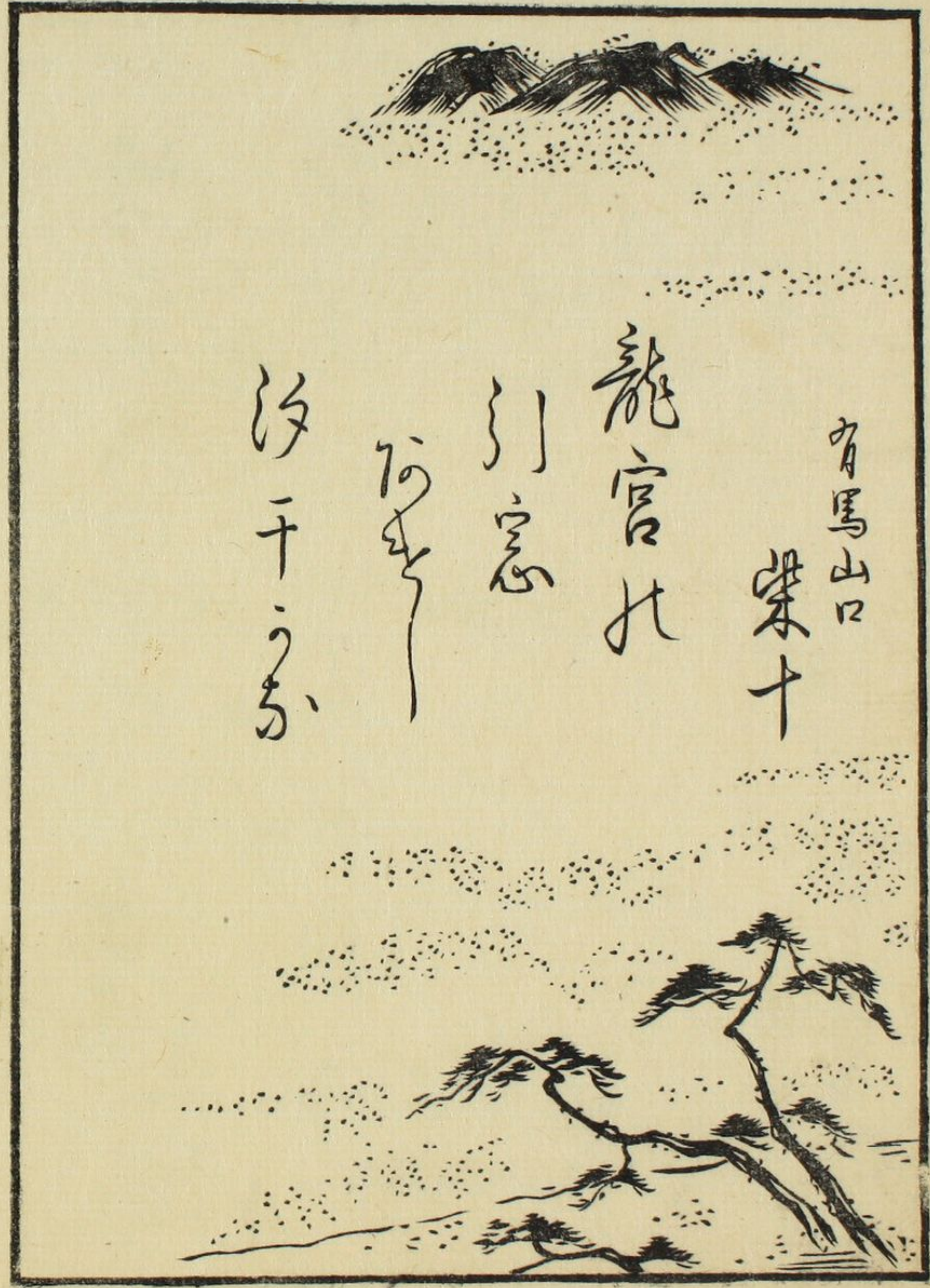
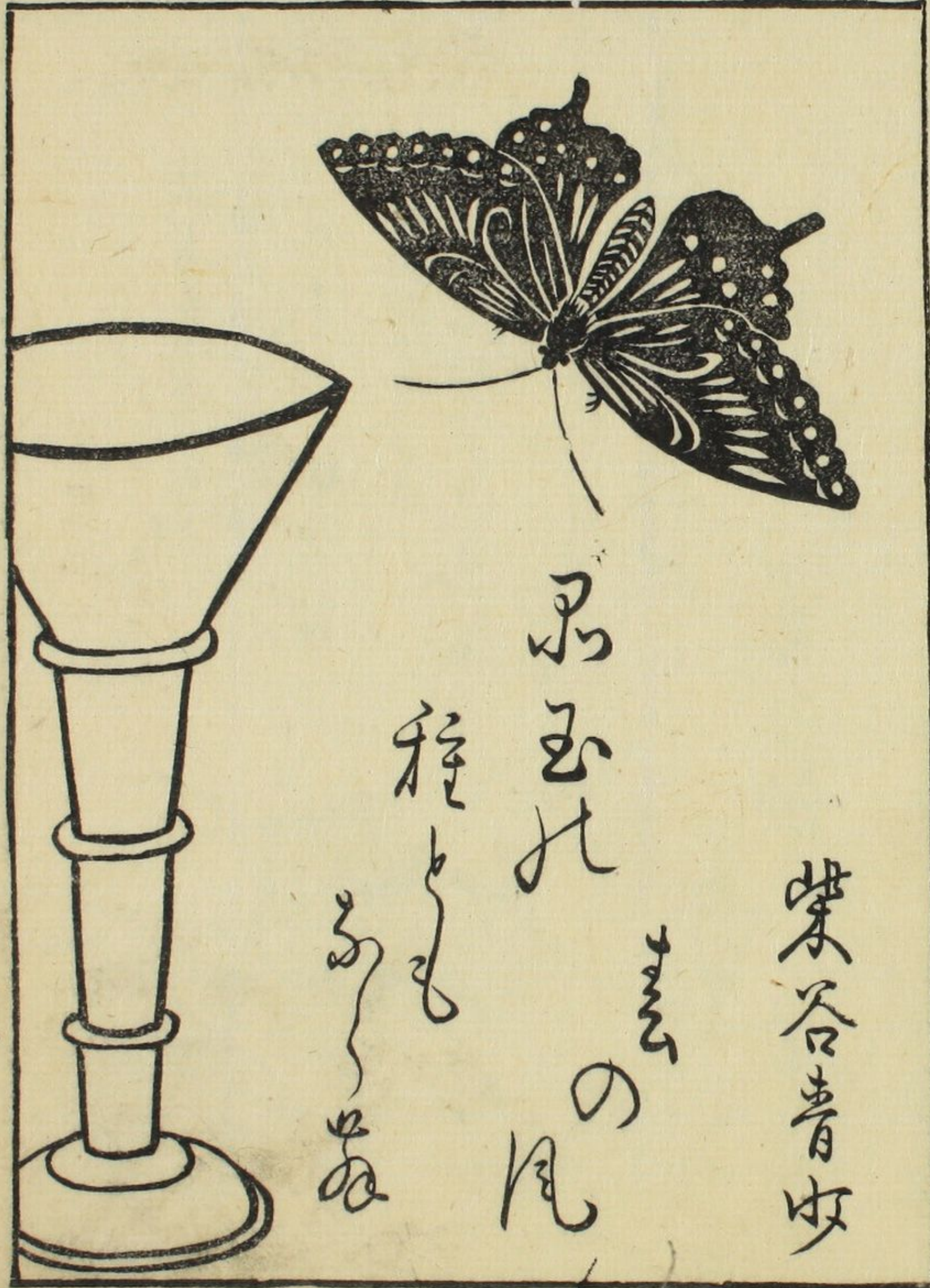
鉄鉾れ

けさや

三日
 の
 海

雷茶

下巻





水香や

持ふ

ふハ

里に

く

兵庫

菟洲

とる花れ

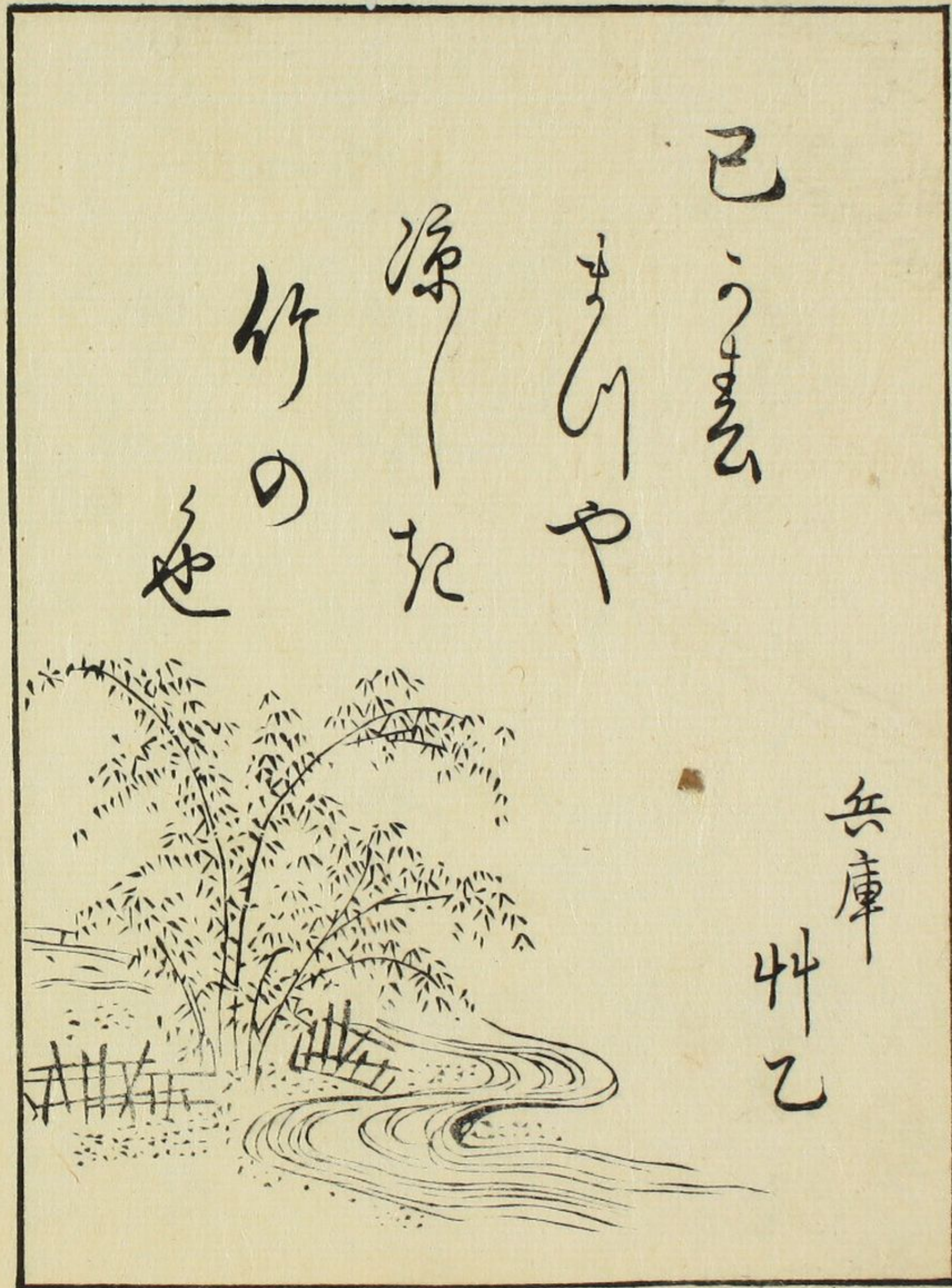
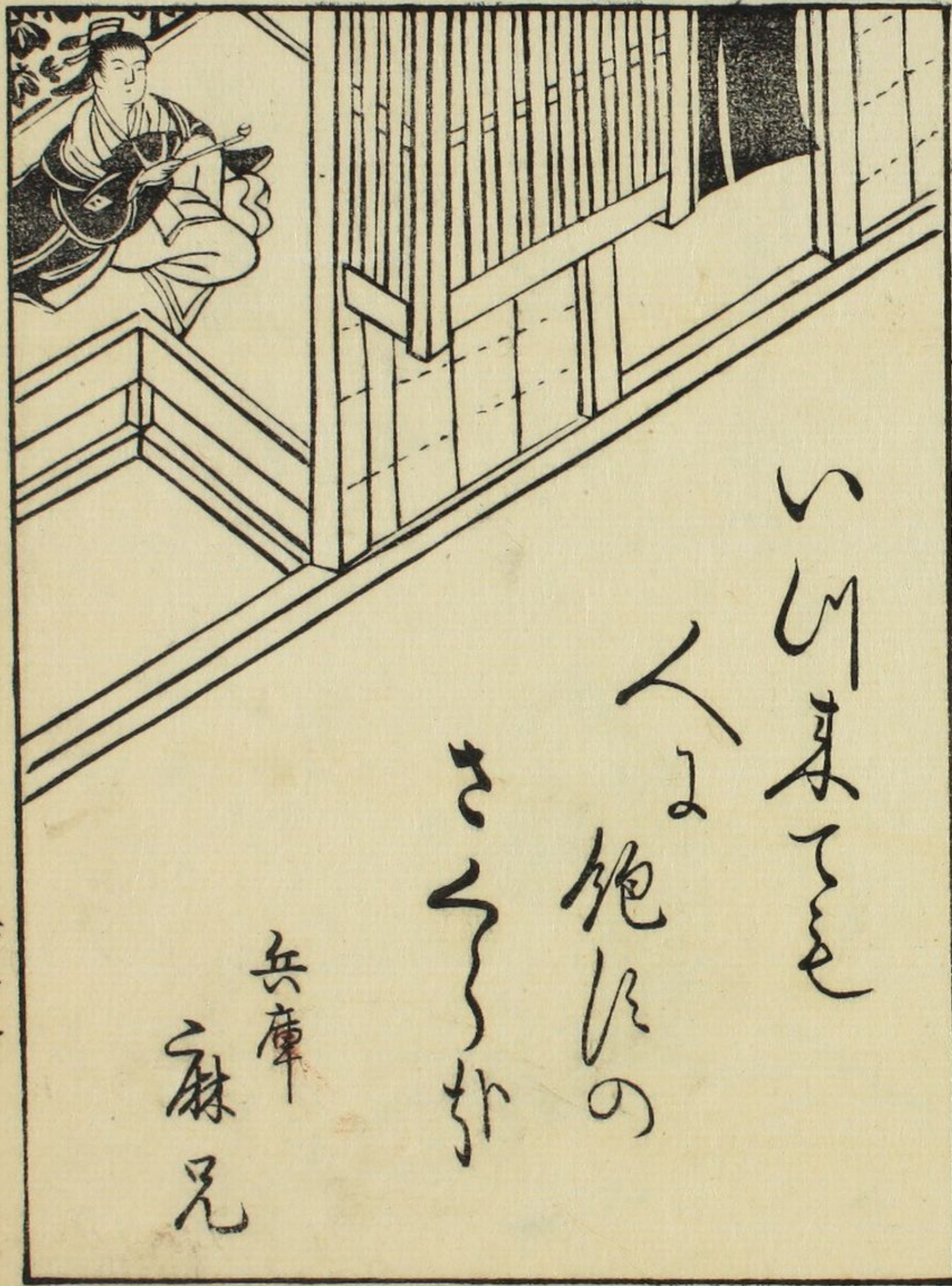
荻や 菊の穂

兵庫

芦月

又月未ださう
 病は休て悩む
 久し老脚骨て
 免うらふ
 ふも候は候氣と
 坊々





咲花れ

夕月や

樹の

はなを

兵庫麦茶改
木羽



日よ

あつて

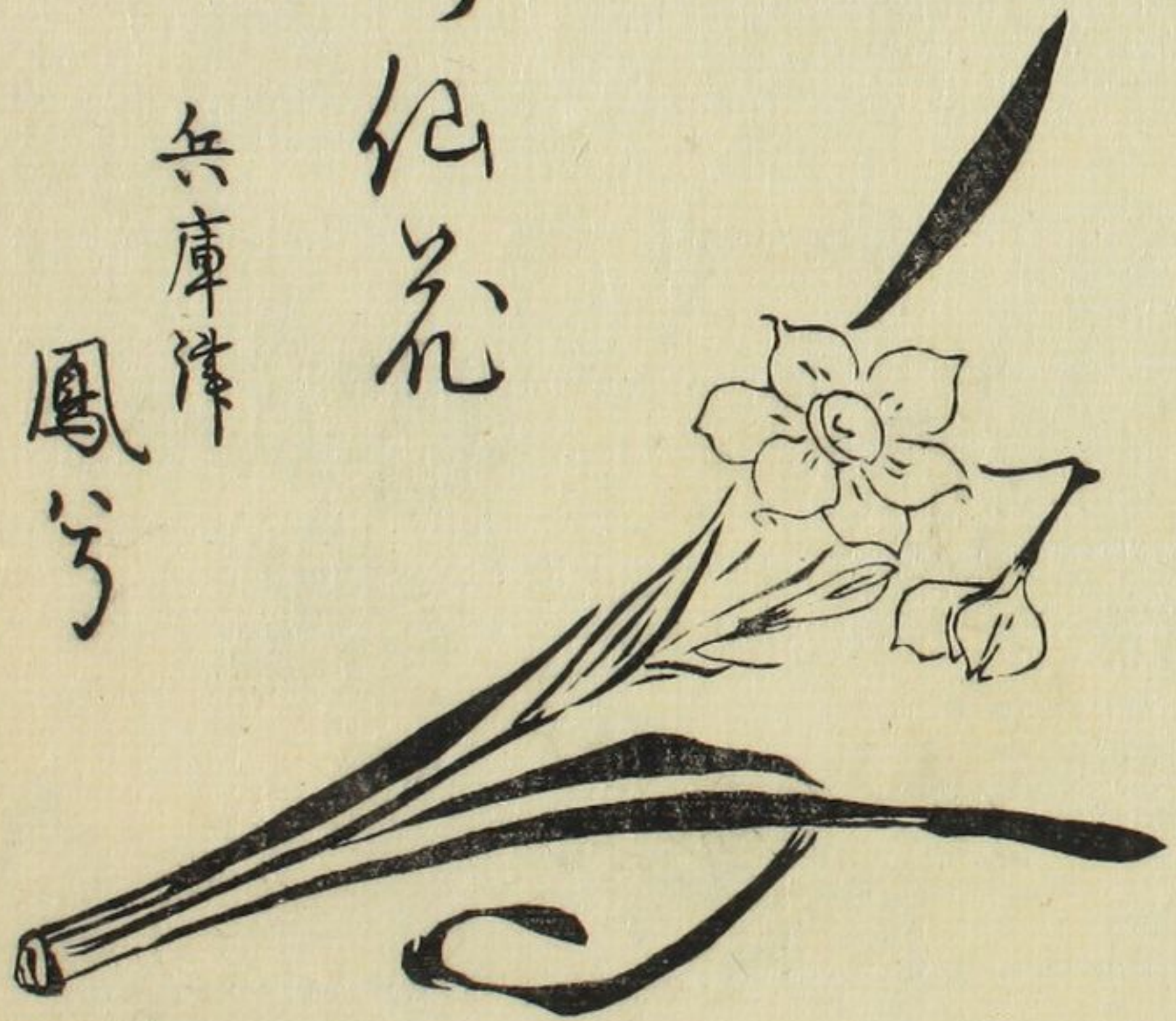
志ろき齒

見せん

あはれ花

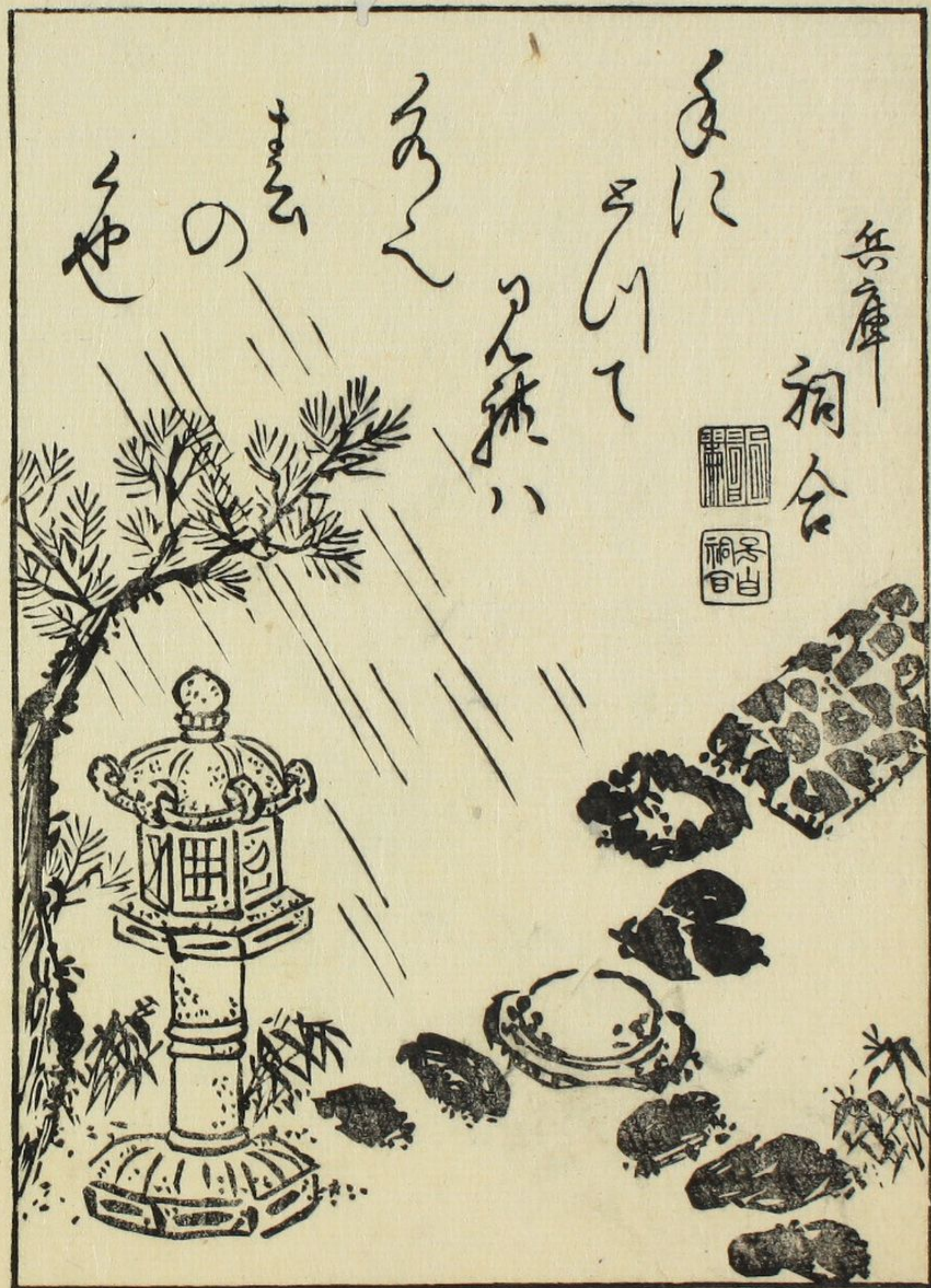
兵庫津

鳳子

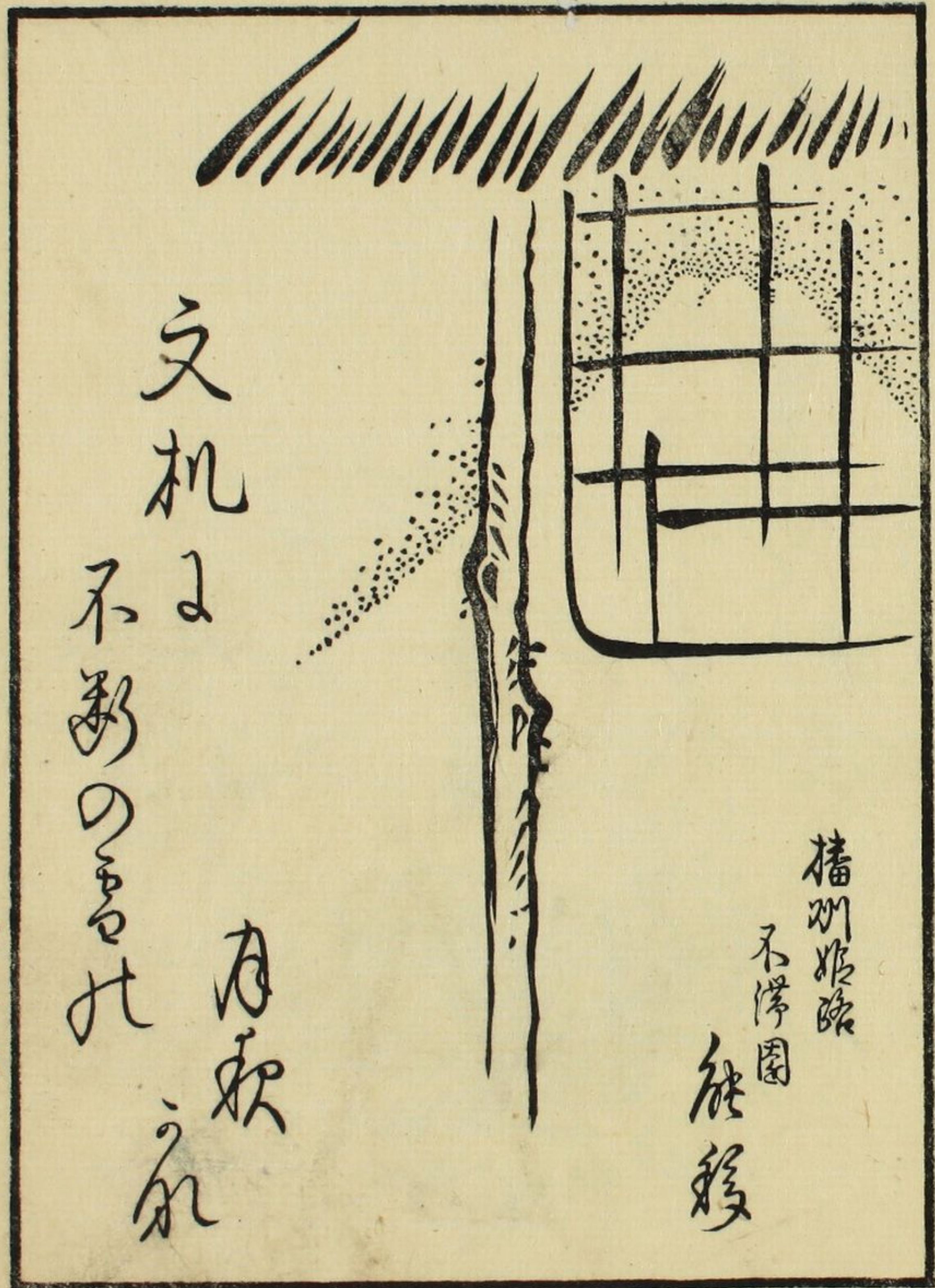




石丈庵
 求花
 仲留をりや
 春の海
 竹をたぐ



兵衛
 洞合
 手に
 三つて
 見流ハ
 多
 きの
 の
 花



文机よ
不器のきり
有秋
うら

播州姫路
不器園
能登



白露や
お新れよきん
世の昔思は
寒風

播州姫路
丹頂堂



西湖月画

水州海客行

白雨

富士の影

晴



月下橋

榮花のまろく哉
控うしれあを

涅槃

舎や

佛の

なり

おの

初

文風



孟蘭盆や

さう

地獄の

谷

此

下



椿阿自画





平野

運子花

紫雲花

平野

都紫



卯丸

花や

うの

高木

うの

都賀

竹比





葛裏

一際

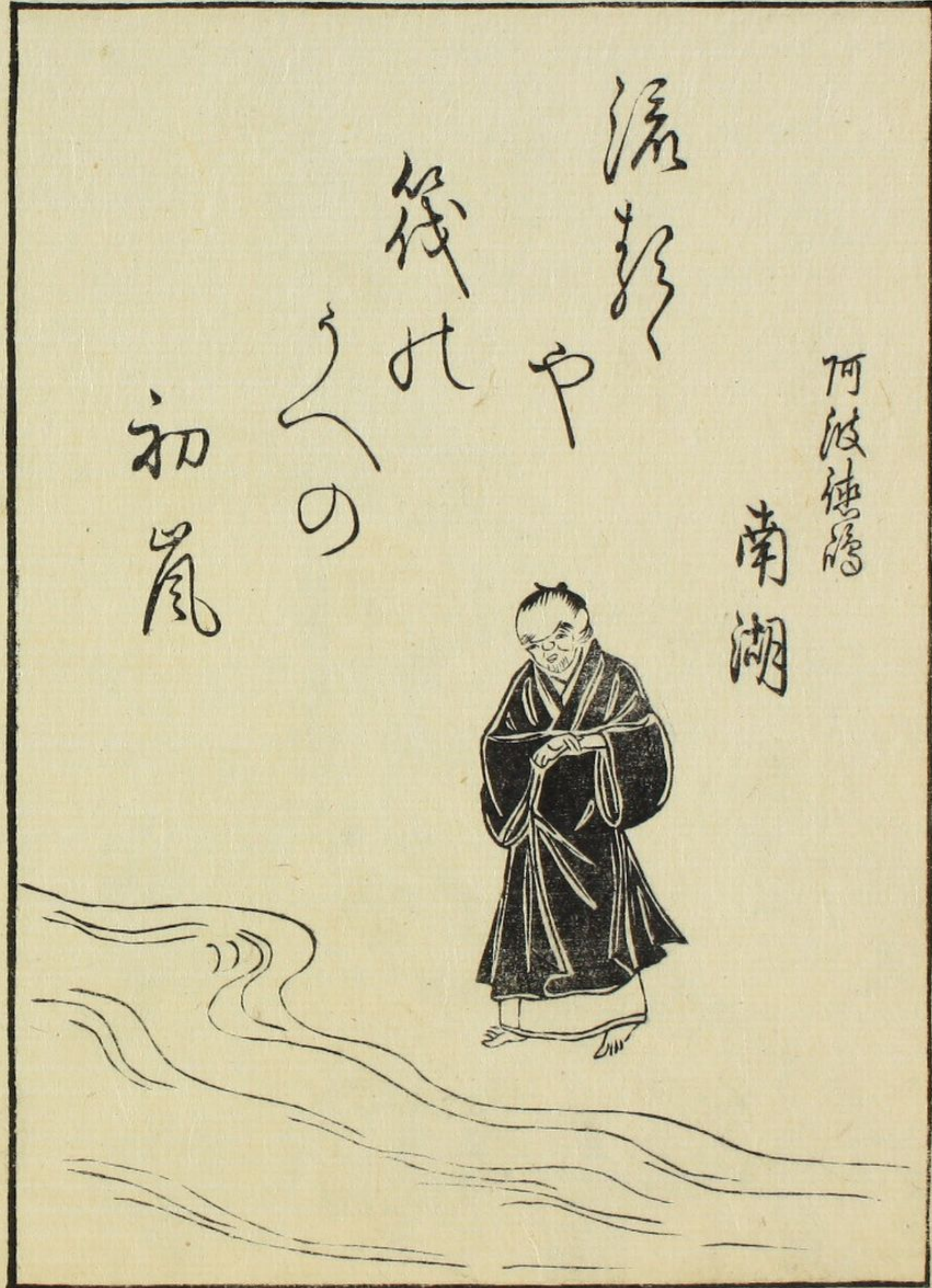
安よ

中

〜

百泉

阿波徳島



南湖

阿波徳島

中

流新

後此

〜の

初嵐

阿波徳嶋

古々角

濃船中

討り

さ枝の

平家

方



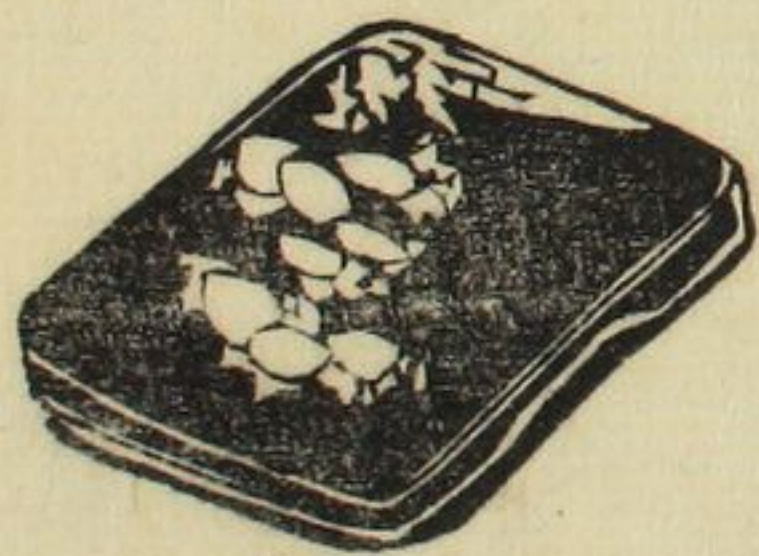
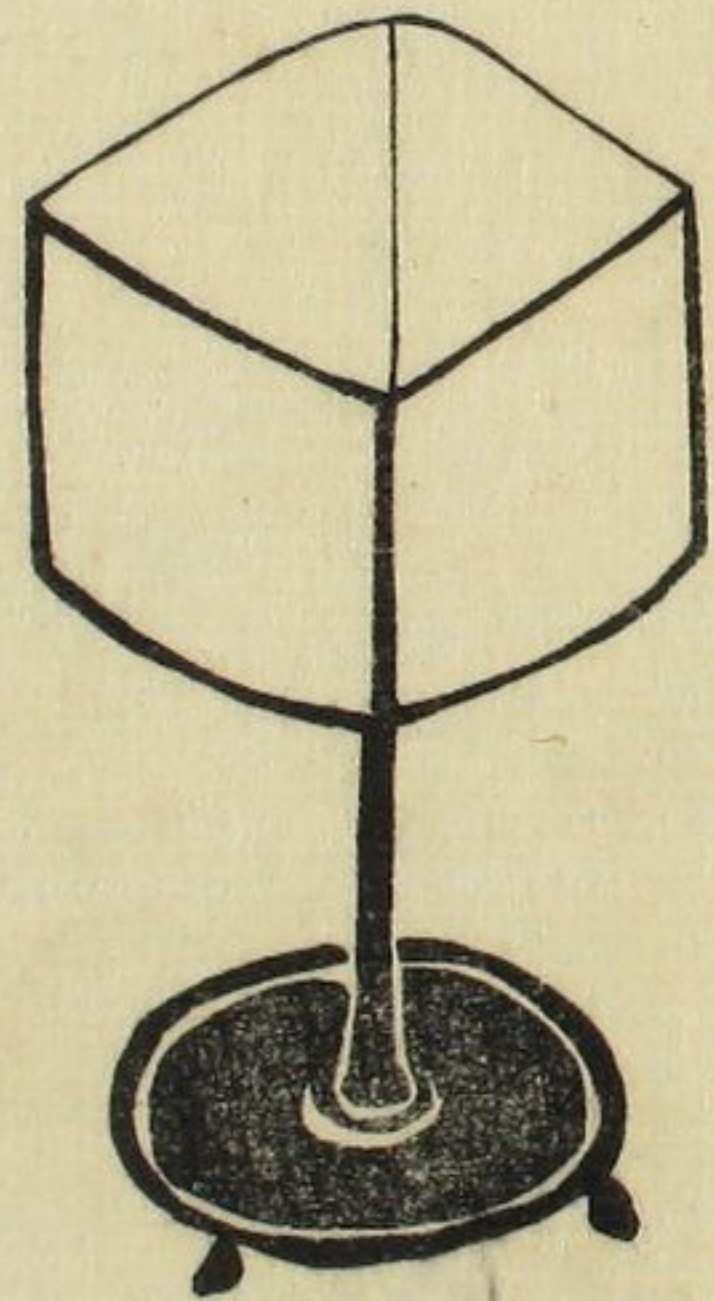
阿波徳嶋
雲哉

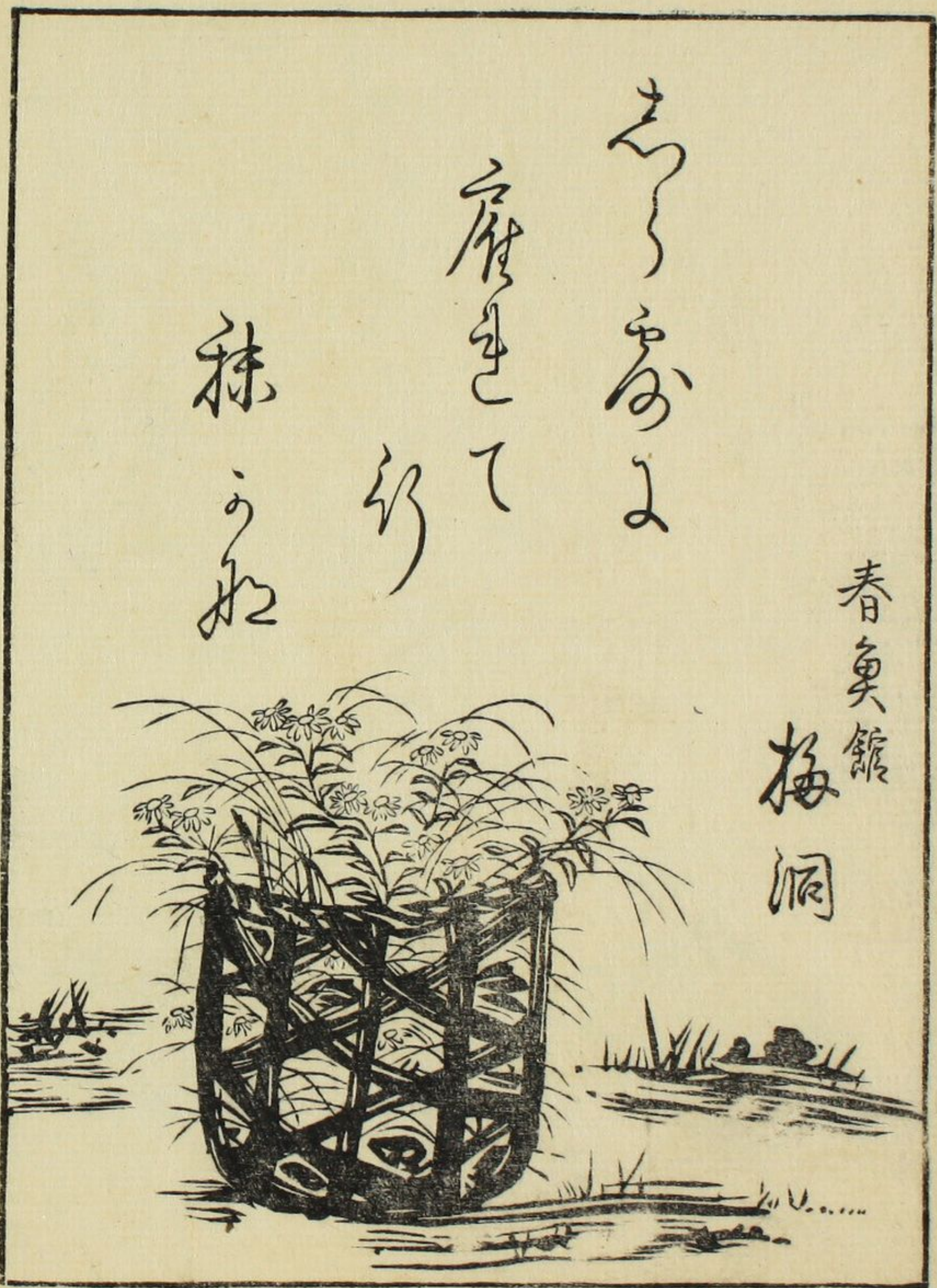
獨力麻ハ

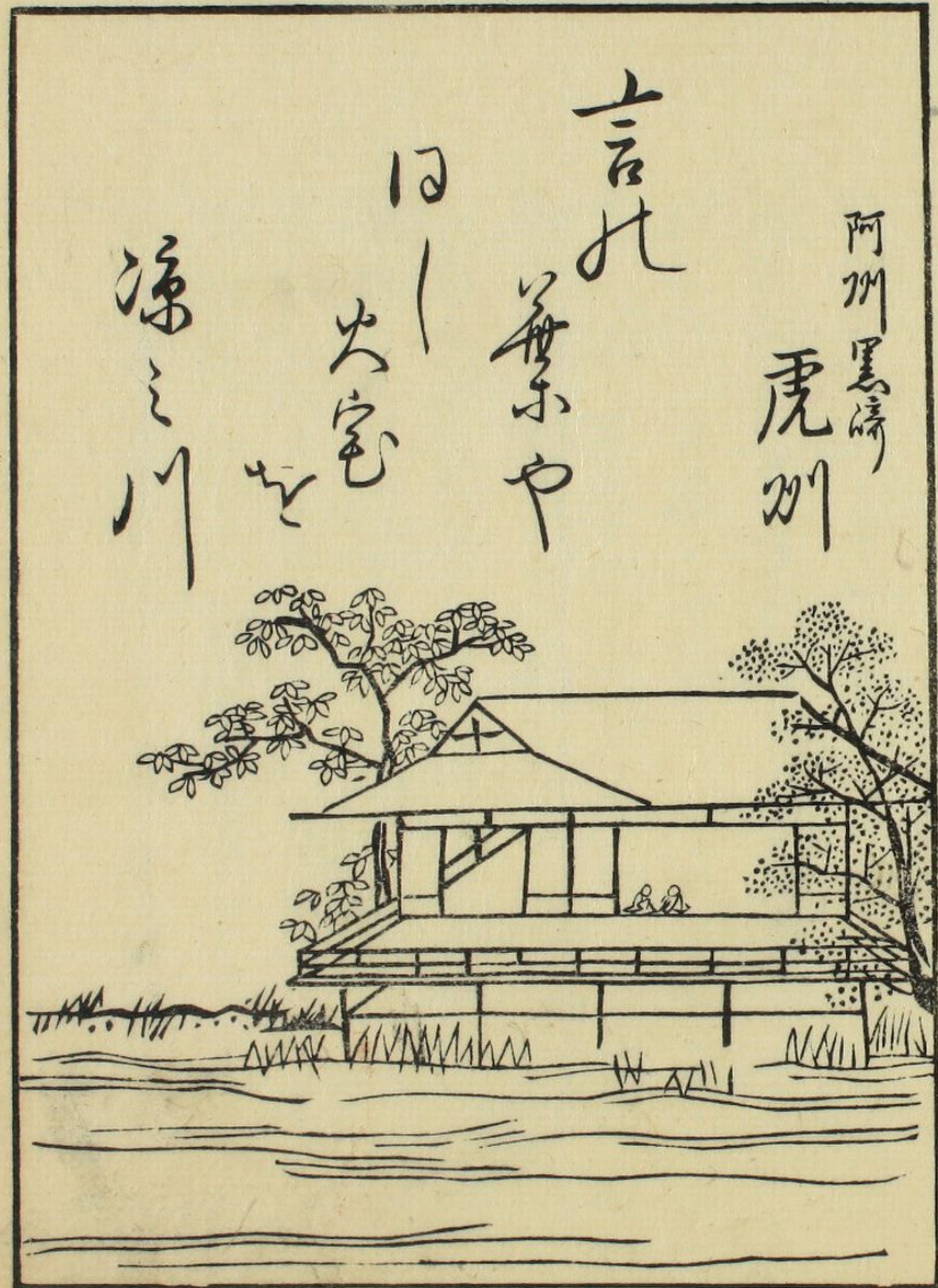
売り

知々ぬ

室々うぬ







世人柳石場と唱ふるあり元龜年中
播州画島の底より江蘇波津より移轉
せり今此と云ふよりわし小境内二十余方
佛殿及び七堂草庵と云へり寺あり
乃ち池あり池の邊りに柳樹一株ありは
時より正号を云は世傳を云とせり今に
至り百八十余年也然して是も此兵
乱より一宇も残るは焼失しぬ蓋平此
時を待渡して今此如く草庵を中興
せり云々一ある月紀又法眼宗典

百回忌ありは是れ一系に追福一平

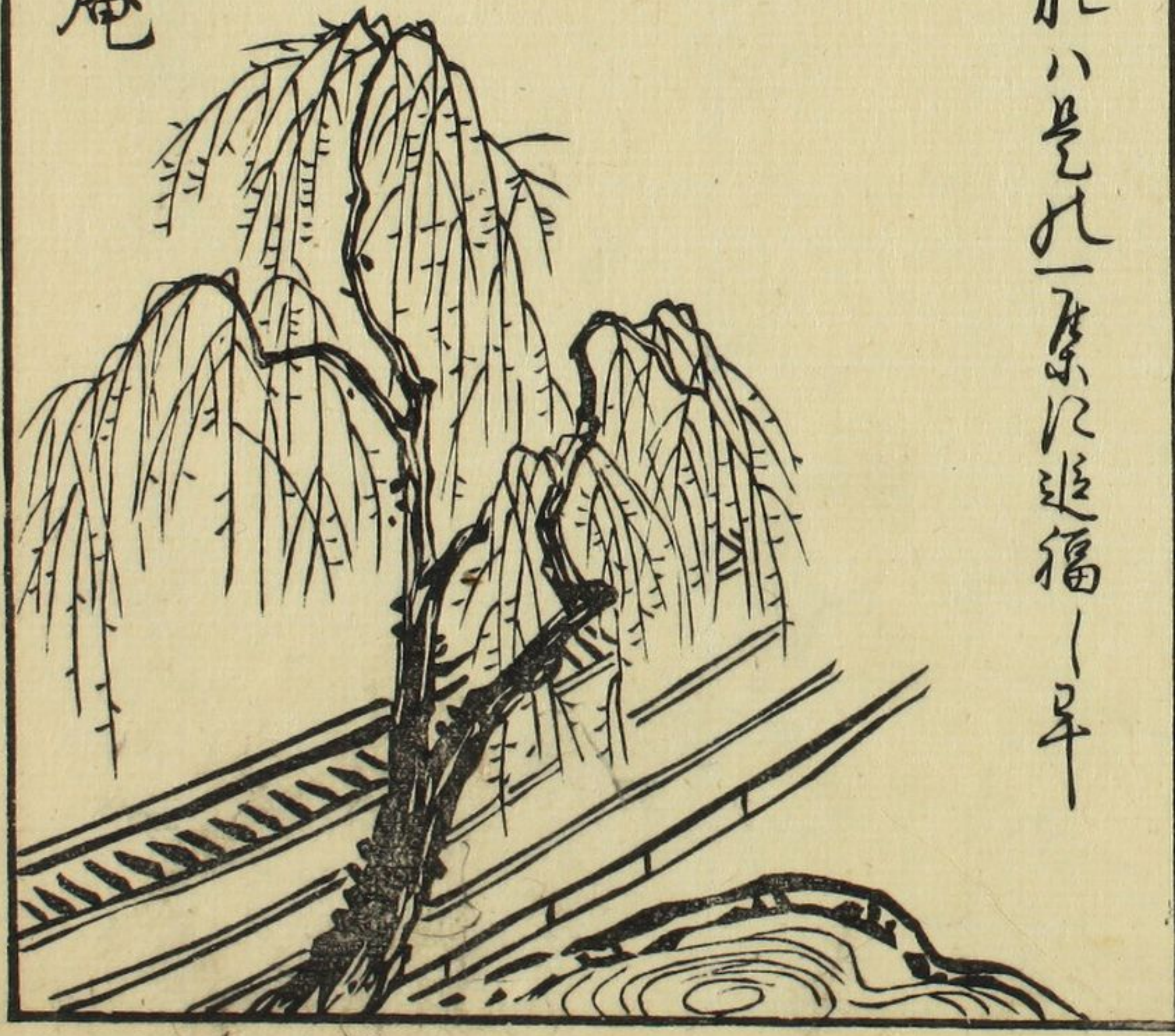
堂々
とあり

風茂

草のや

心空柳

故柳庵





下生十五



橋杭よ

風の

うけたる

さくさく

浪別須本

指月



名月や

おぼれて掃く

阿け此境

浪別須本

雨山

清洲改本

解去彦

初雪也

志

小物也

乳と

離生



清洲改本

周蔭

如栗也

小神也

う

丸裸





世に周を

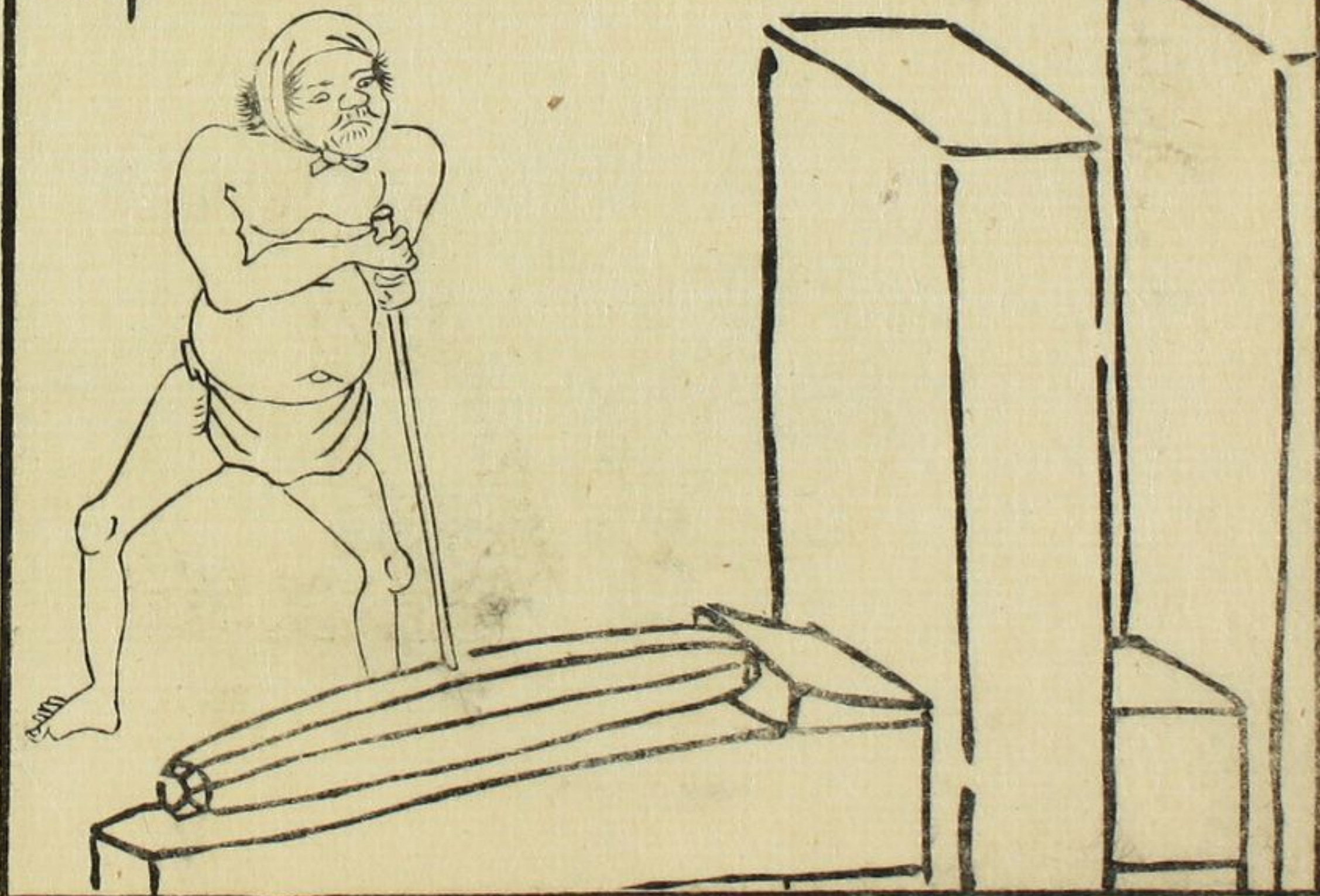
照る

むらや

高き菜の花

淡州福良外改

雲浦



淡州福良

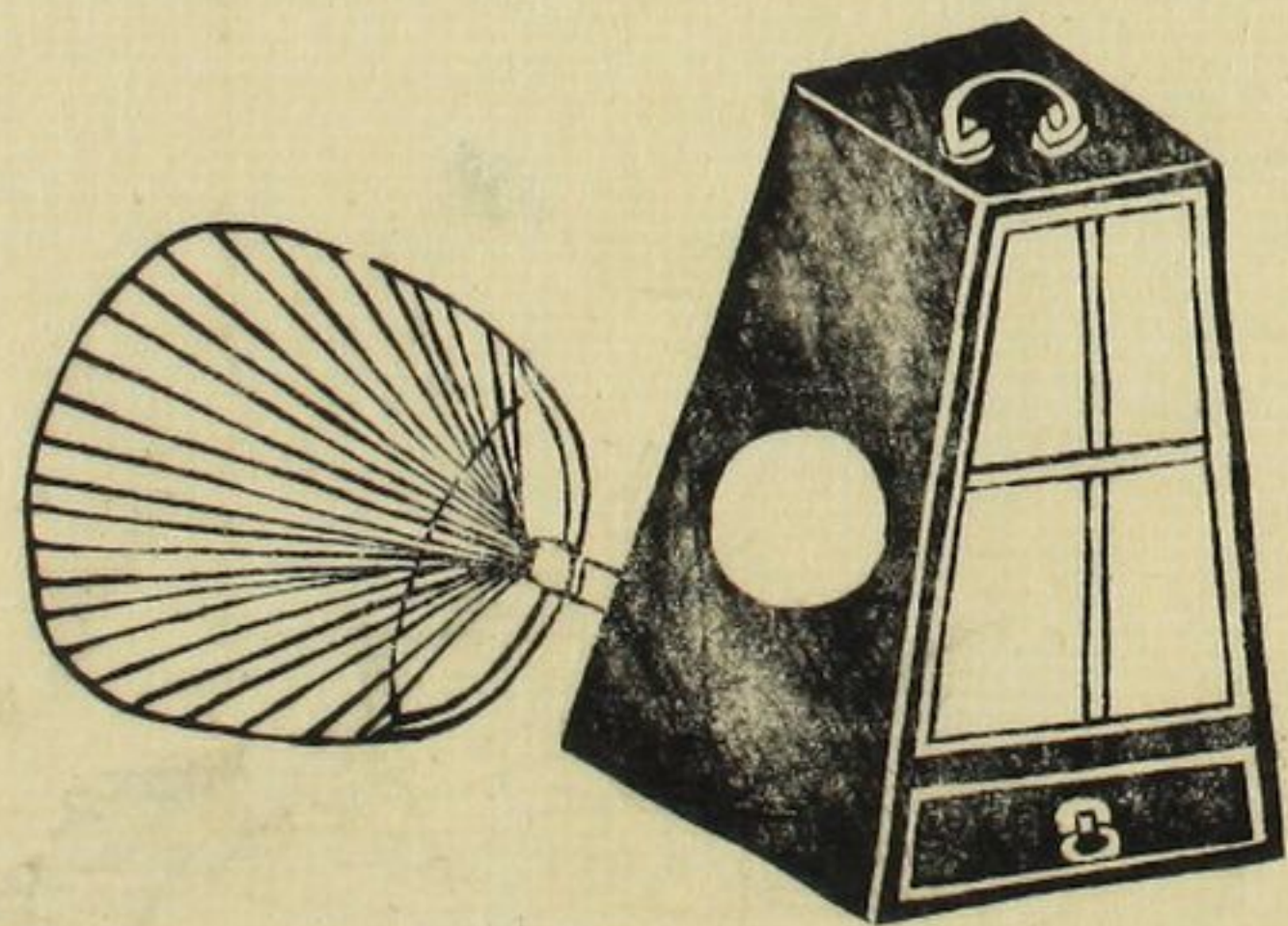
芦仙

夕立よ

あしや

藤年丸

水車





淡州福良五風奇

桐酒

文臺を

磯よ

杉目や

寺

干

浮



雲の

峯

杉よ

舟丸

富士

詣

淡州福良

素抱

あさかぢや

まじ

東雲

よ

あ〜れ

京

淡州福良本琴亭

蘭水



横々牛

野々

足乃

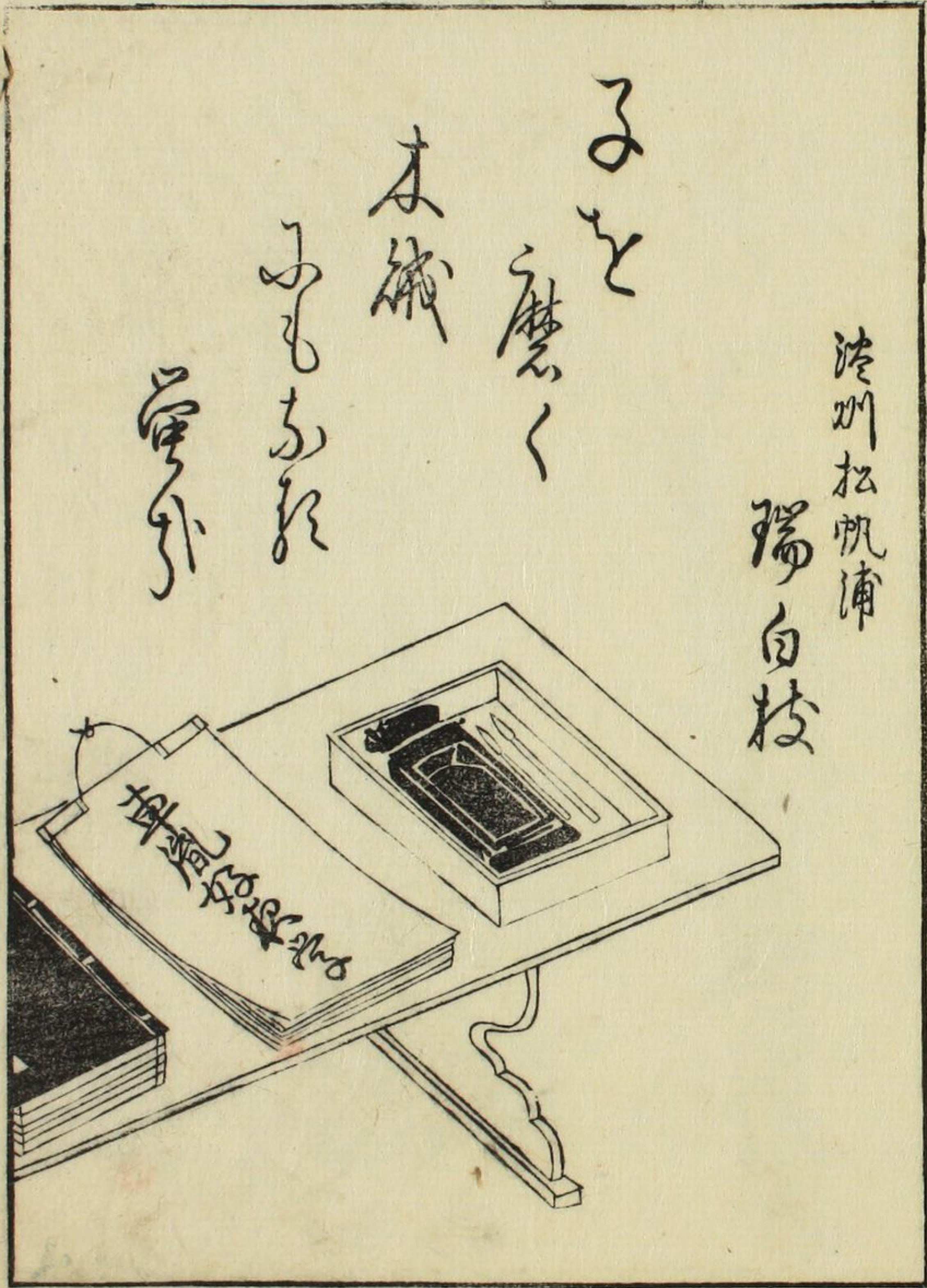
透夜

うす

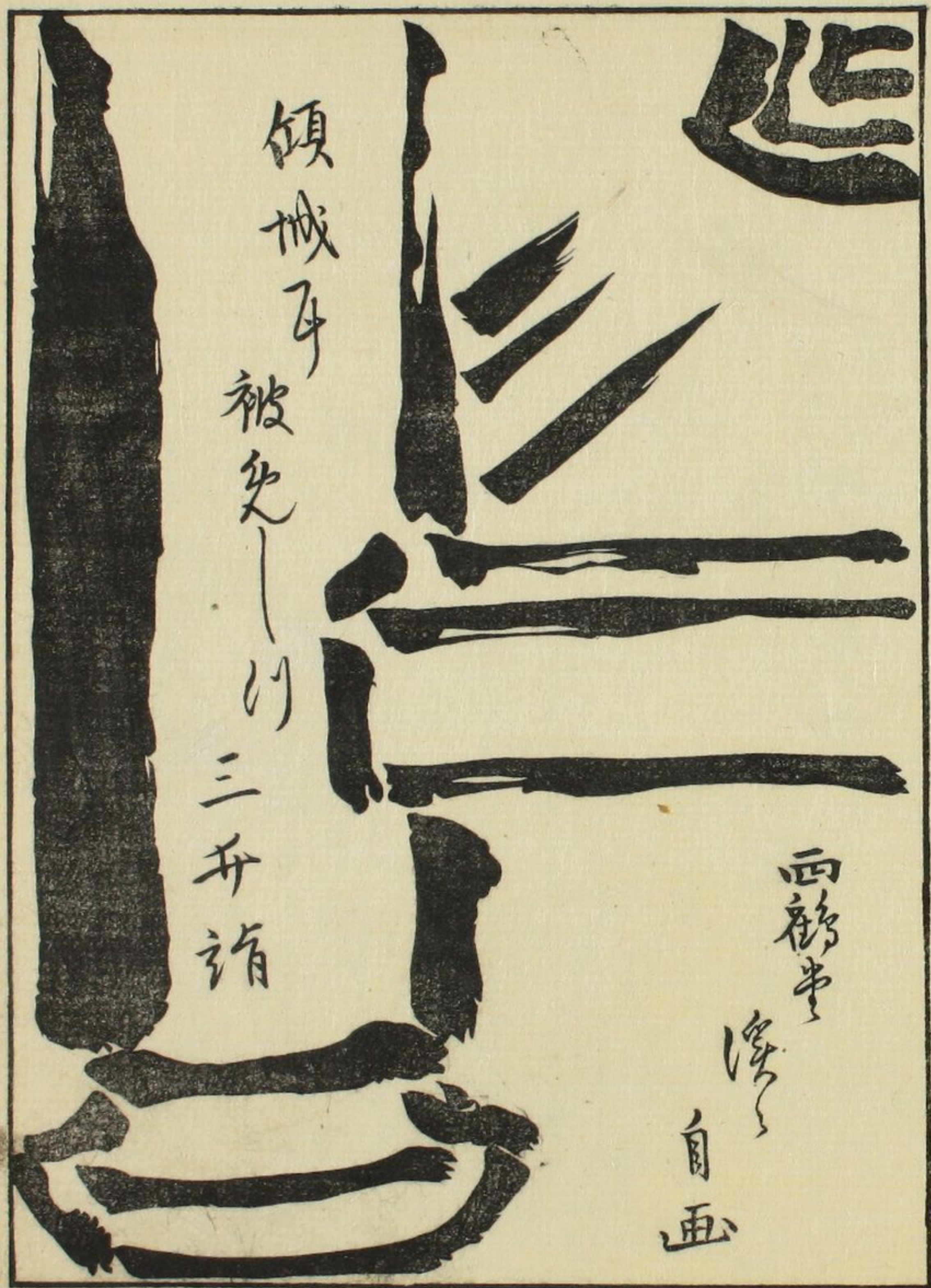
唐采葉

予羅自画









延

領城耳

被免一川

三并詣

西鶴中

溪

自画



明月也

垢を

鏡に

髻奴

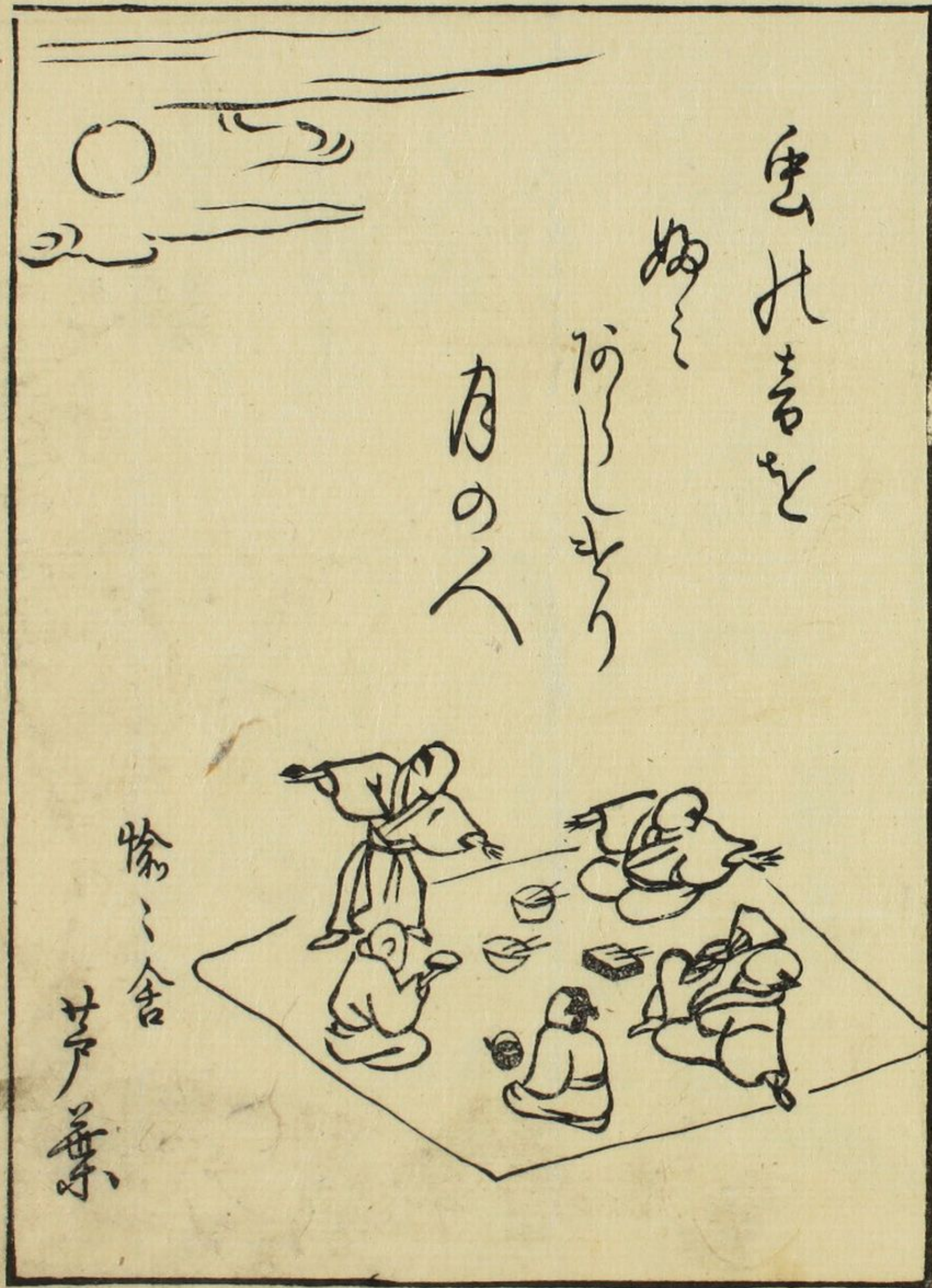
南紀印南

方寸



下三十六





此れを

ぬ

あしき

の

物

舎

下三十二



此

の

あしき

の

楓

坡

下三十三

多毛

香毛

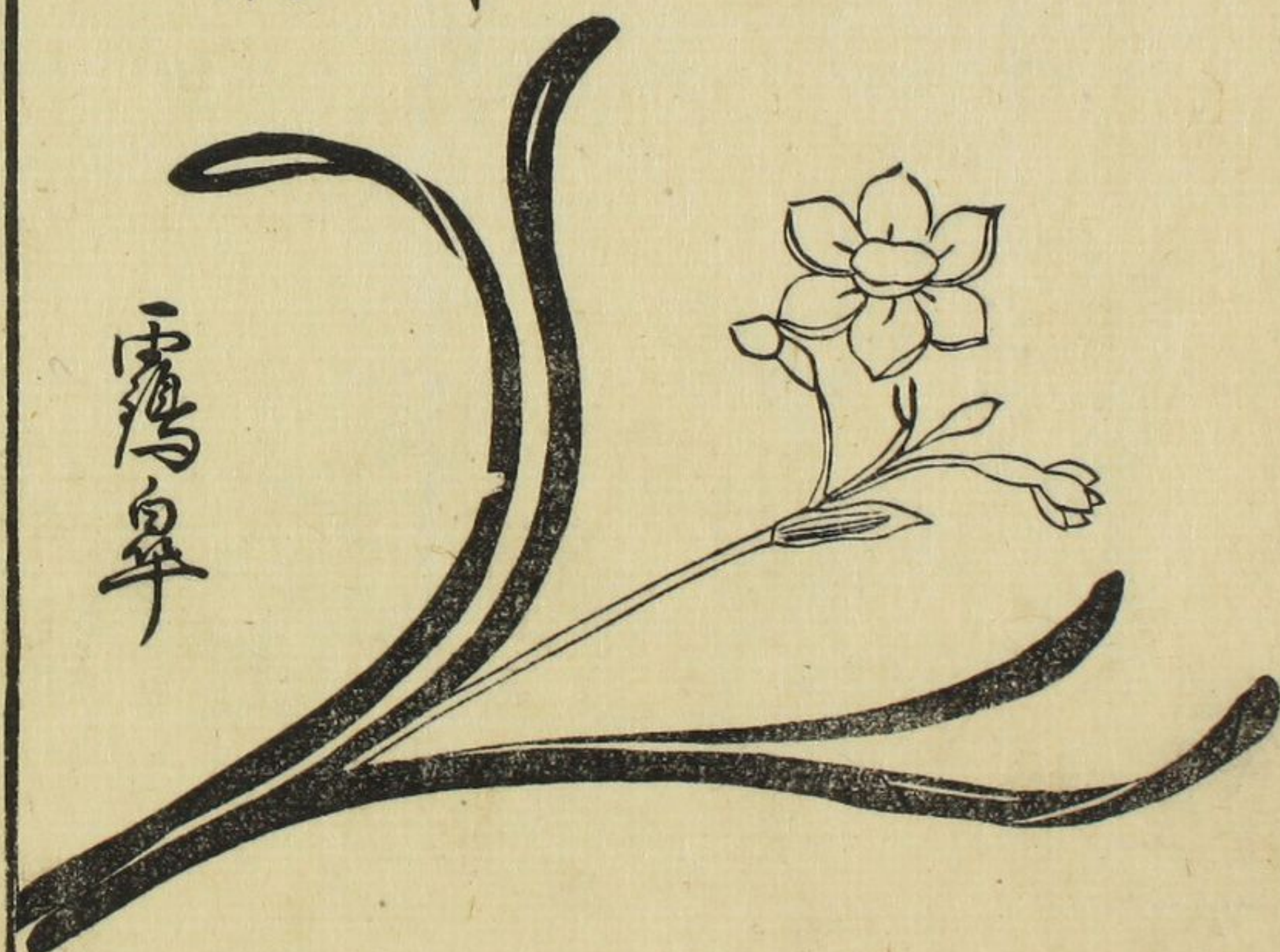
ぢんの

云々

や

水仙花

露草



ヒツピウリ

しらべ

あや

か

の

應律





十三夜

市書て室八

後北

月夜外 作菟阿丘



織敷へ

牛色

藤小

ゆく

今宵の月

西嶺中娘色致雲奇

之榭



○

八月
月廿
納涼の如
千峰



西嶺大砂系
千峰

明方ハ

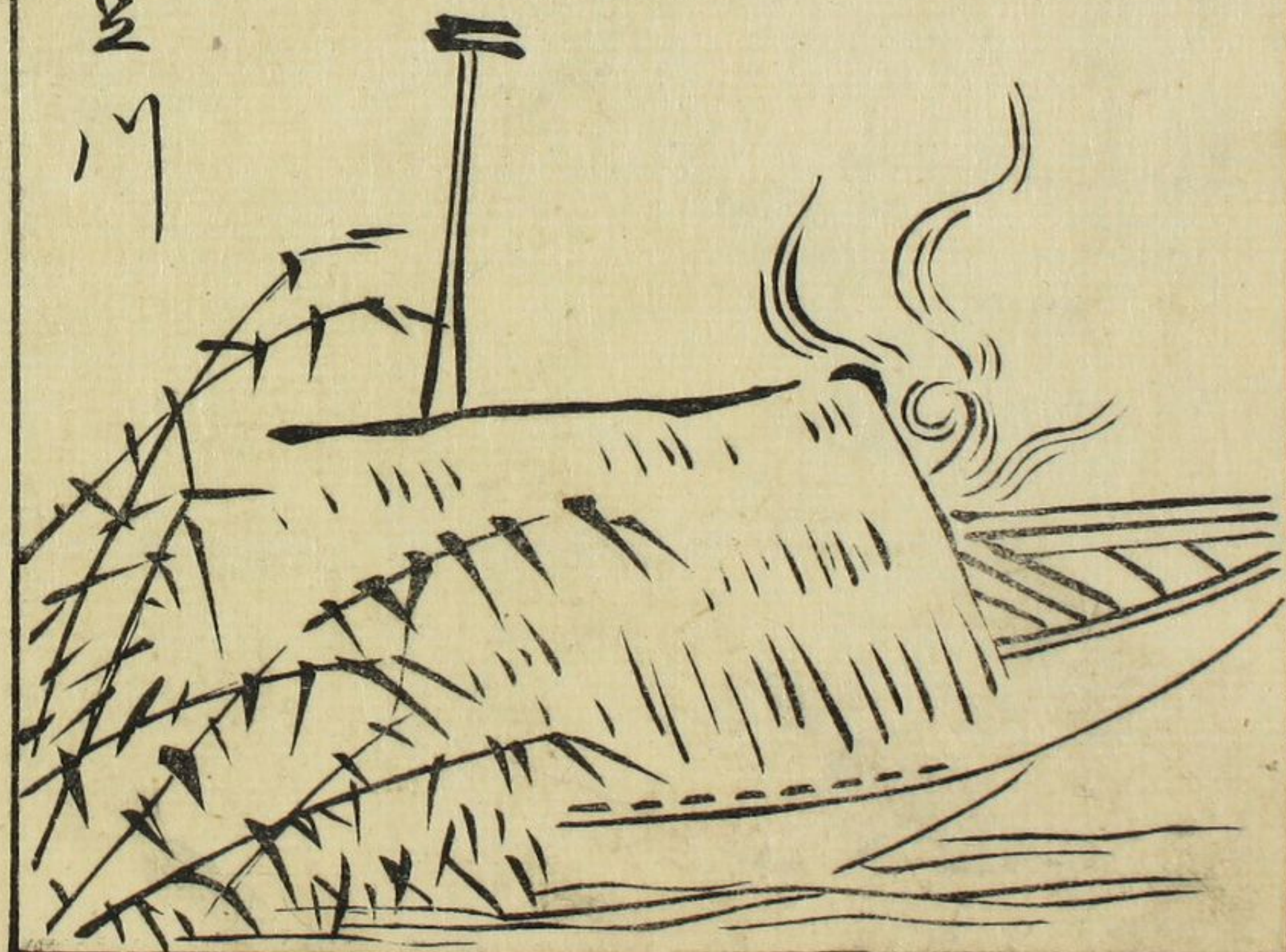
舟より

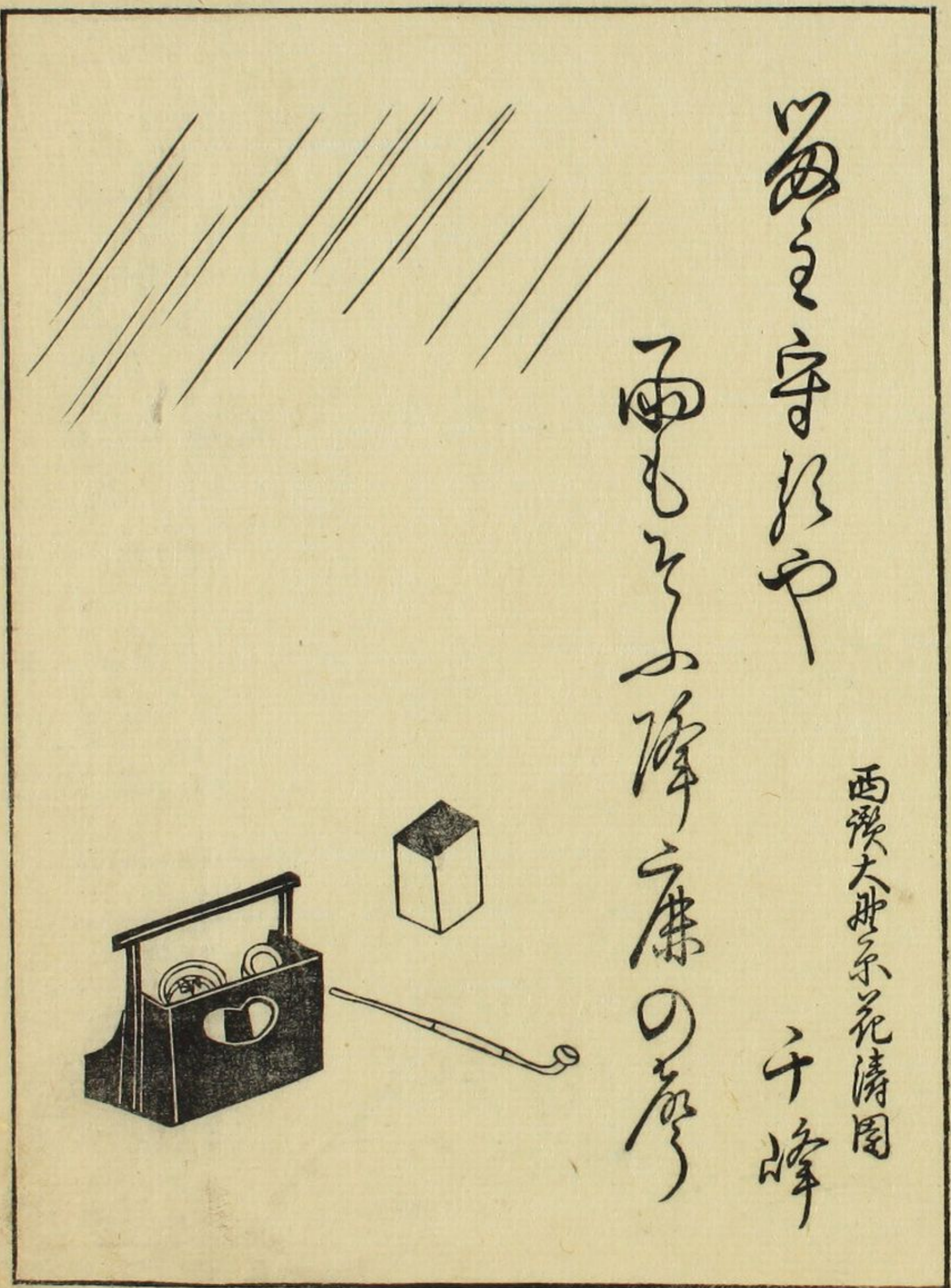
之座

蚊巻了外

西嶺中娘邑

豊川





海を守るや

雨もその降る蓑の音

西嶽大母系花清園

千峰



昔のや

目

ま

みとけ

西嶽大母系研沼堂

古石

端午

傘栗

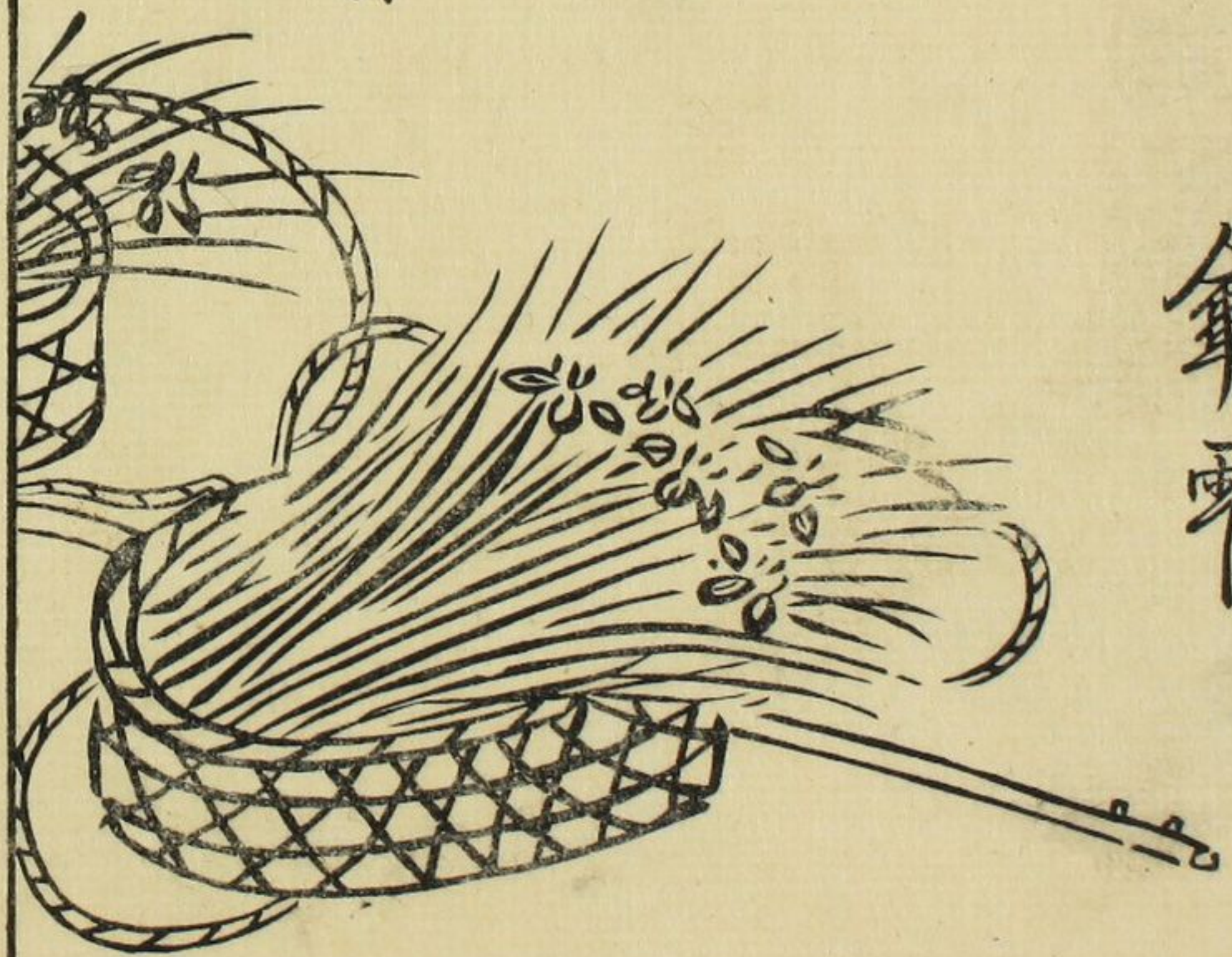
菖月ものゝ

栞とら

煮るゝぬ

昔の蒲

か



猫意

素流

叫のおと

まげふや

猫の書







森鴉人之怪小伸之折引

山崎亭

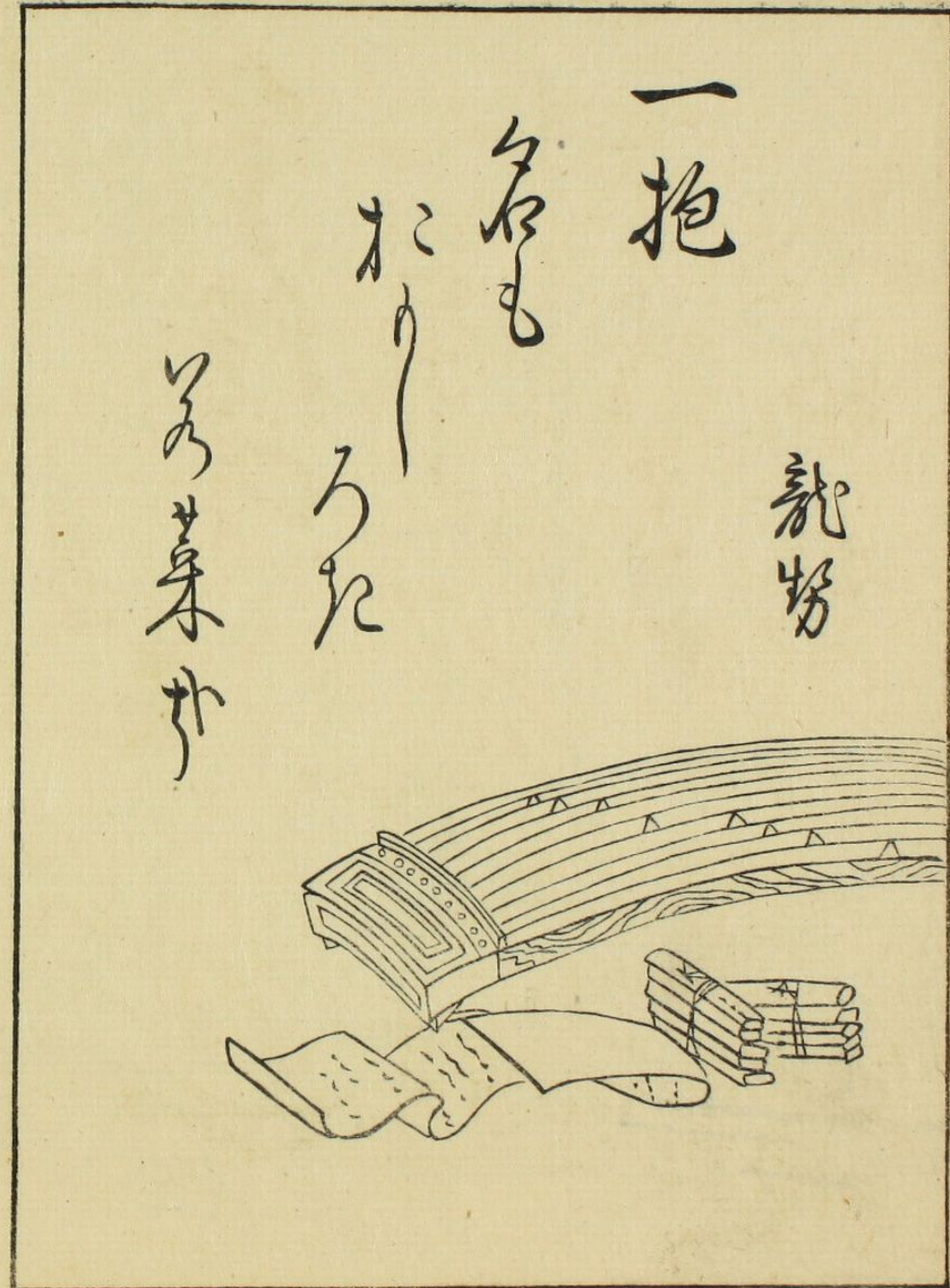
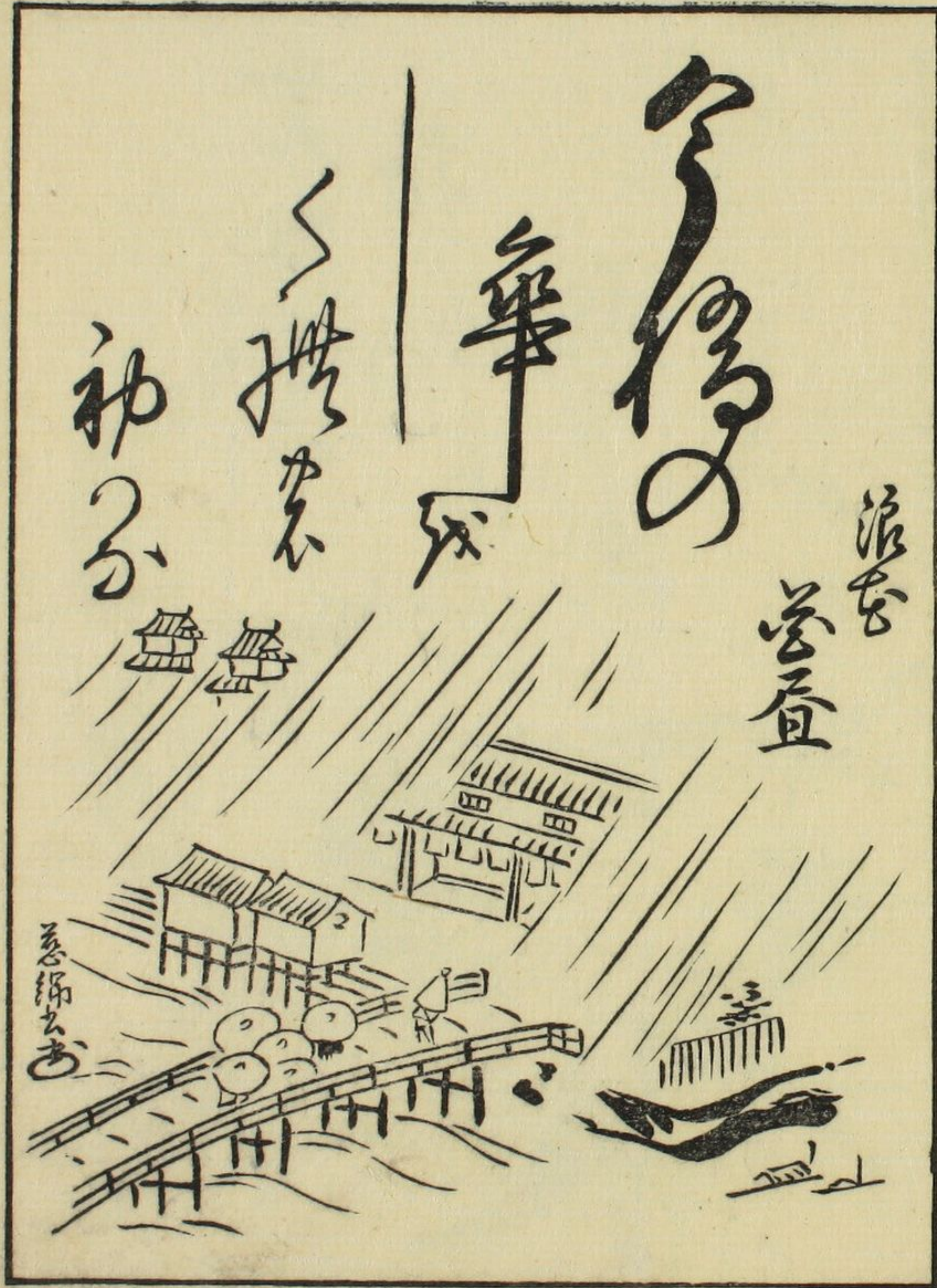
路栓



山崎

生かすの心算に一箇氣

山崎







え日や法小ハ持うぬ持持守 鯉天

河別佐太琴川段 代美山窓

下四十八



かなふ急

雨よ

あゝれ糸

岸の麻

南郊

度鼓

四十七





枯草也

蓬萊寺也

神
懐

池の魚



月弓也

菊矢

たりのきり

郭
云

武庫山下

丹頂館

秋房

丁卯年

妻待也

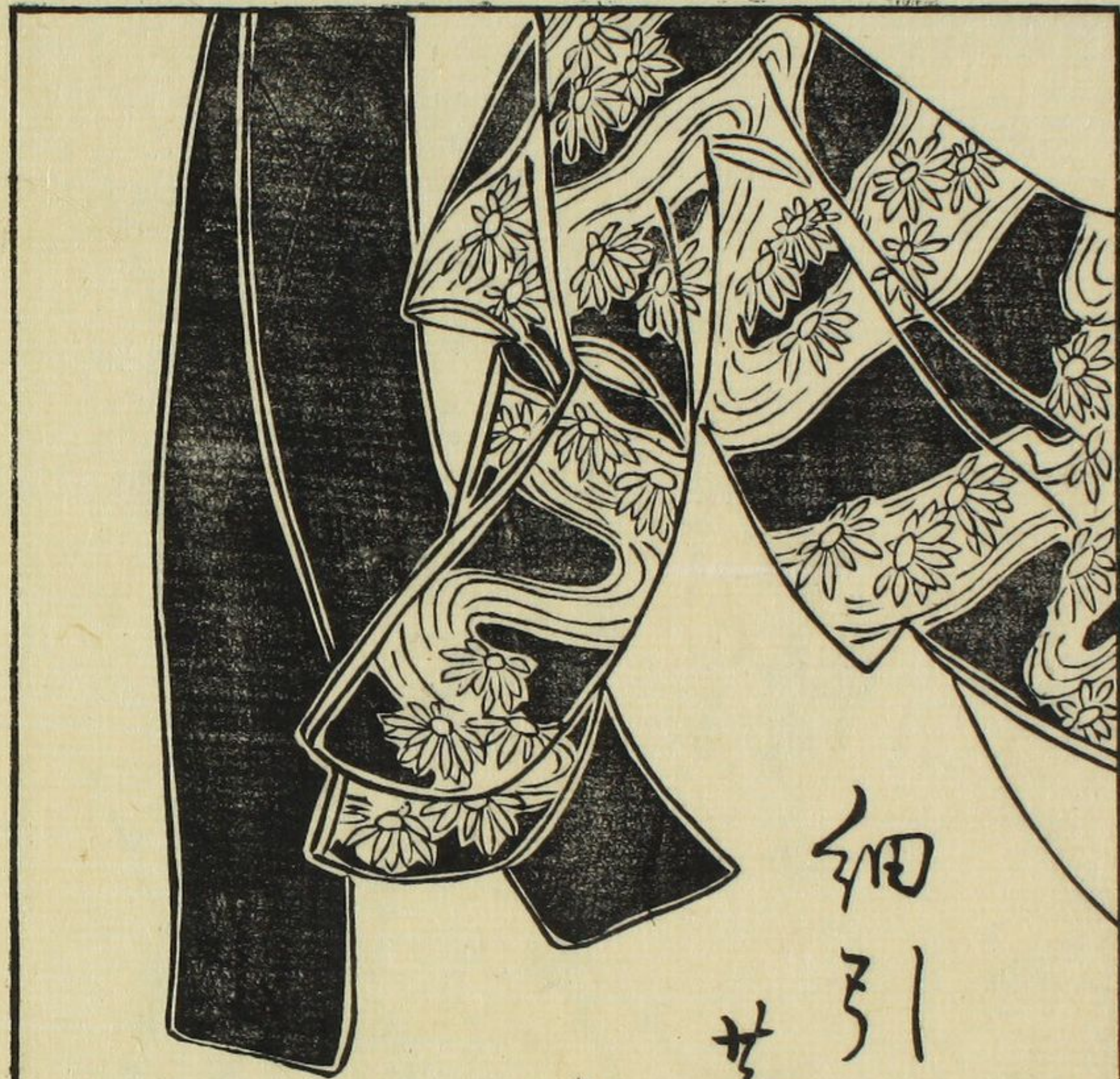
稻葉子

此

夕化張

酉宮

都牛



細引ハ

草此

酉宮

仙橋

あし

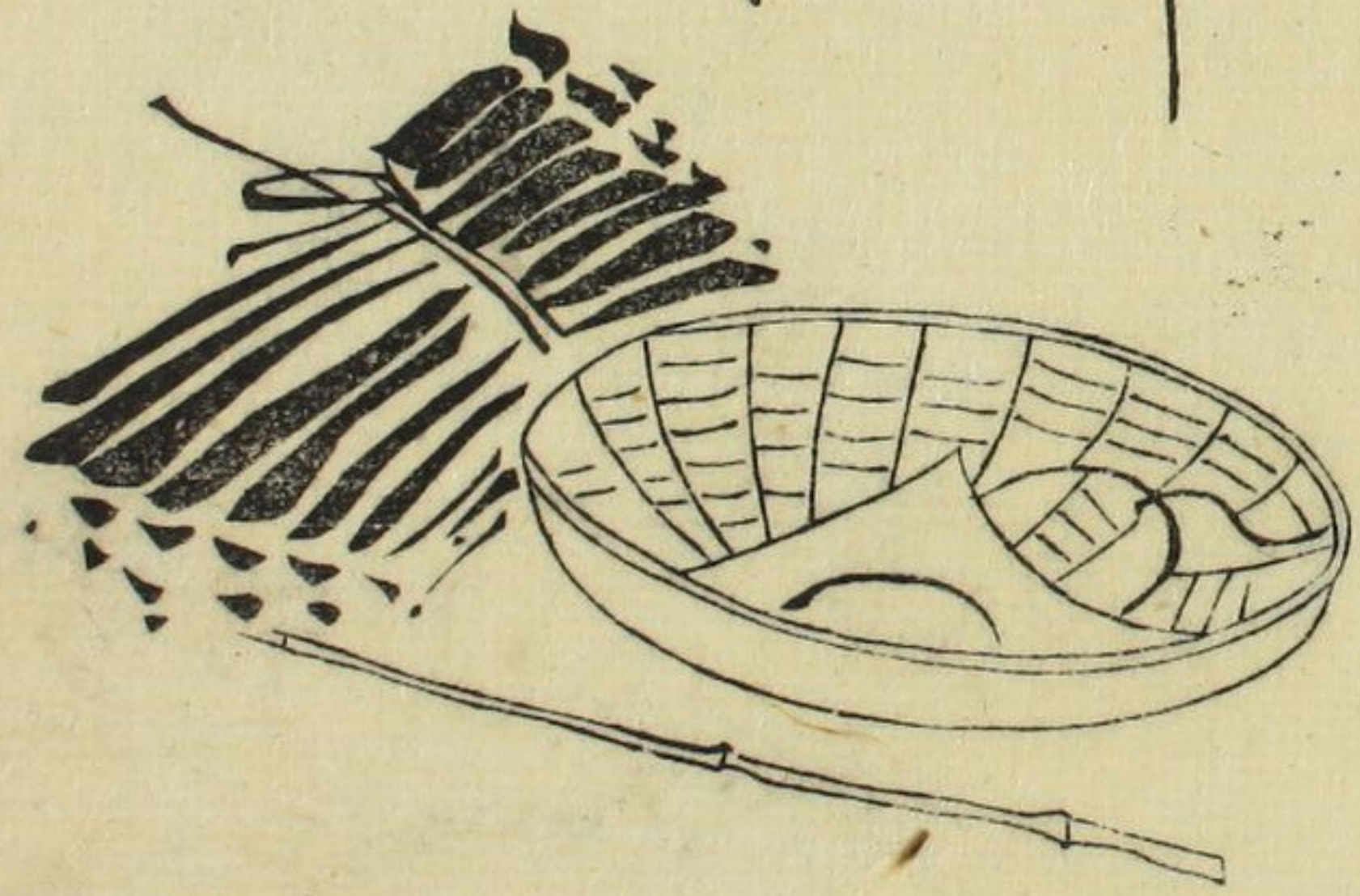
云

干

小原女を

笠
さ
か

冬ふゆ



陸良自画

経船や

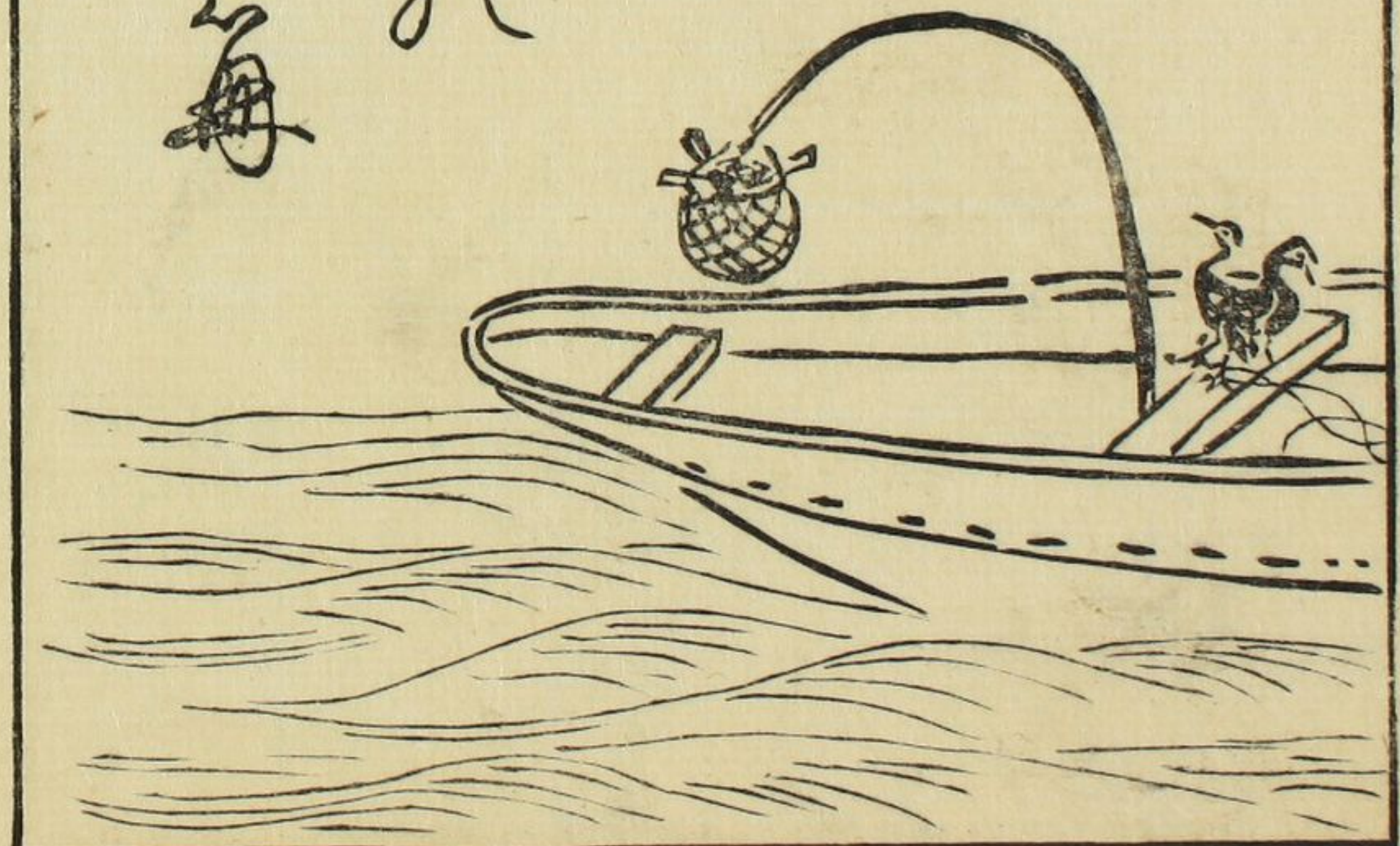
美濃の

川邊に

明海

西宮林鳥段

布枿





舟へ飛

やうハ

漂木

此

落葉外

西宮五笑軒

漁舟



少年

鳳丘画

西宮魚住

秀乃麻

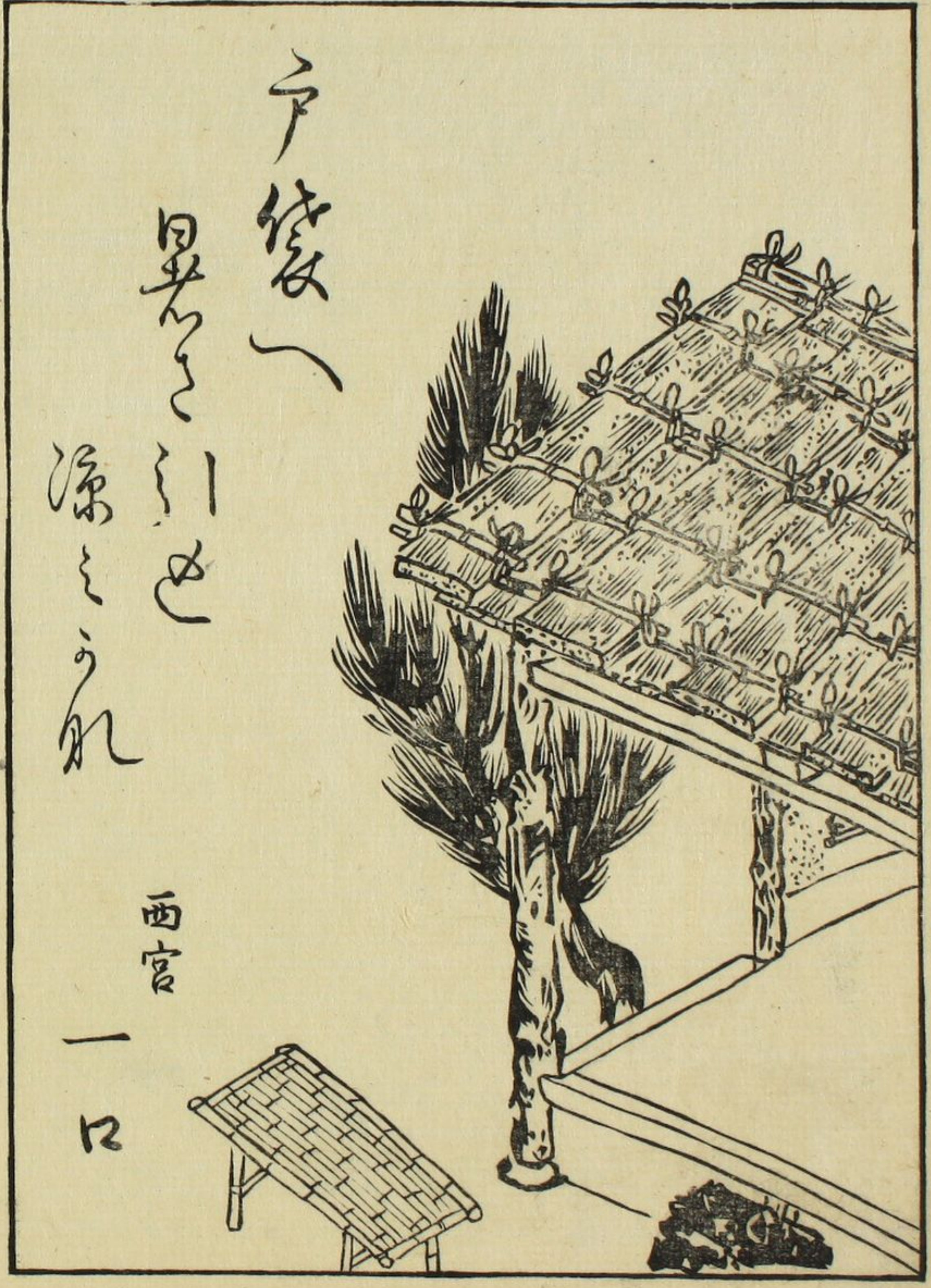
致せり火中

煙ハ周ハ山生合



北家
 保家
 中乃菴

西宮様



戸袋
 日
 深

西宮

一
口



秋風よ

撥と落しとふ

徳野本元半瓢舎

曲左鼓

子周

下五五



初秋やよみ

あんなたまの

舟出人

長波自画

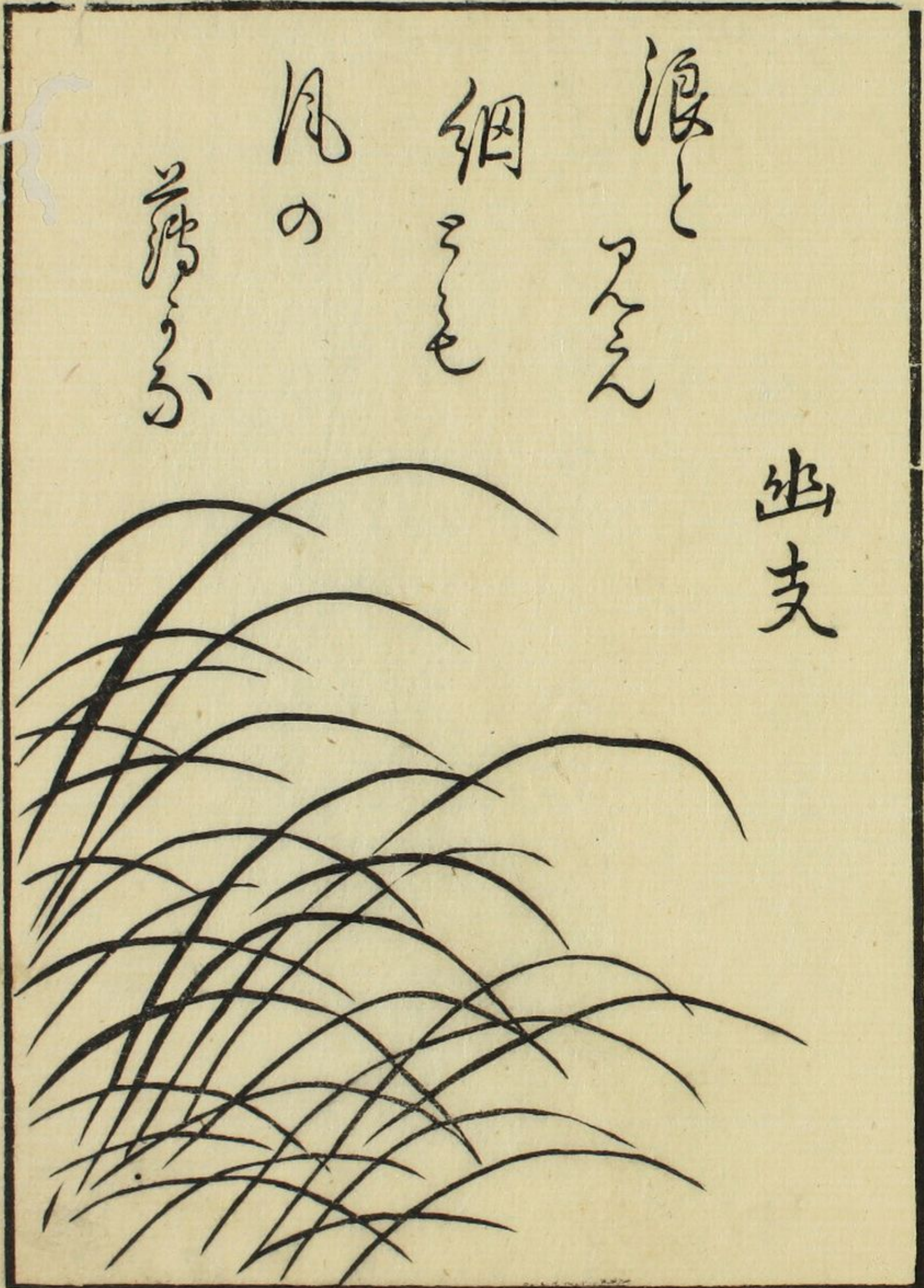
下五五

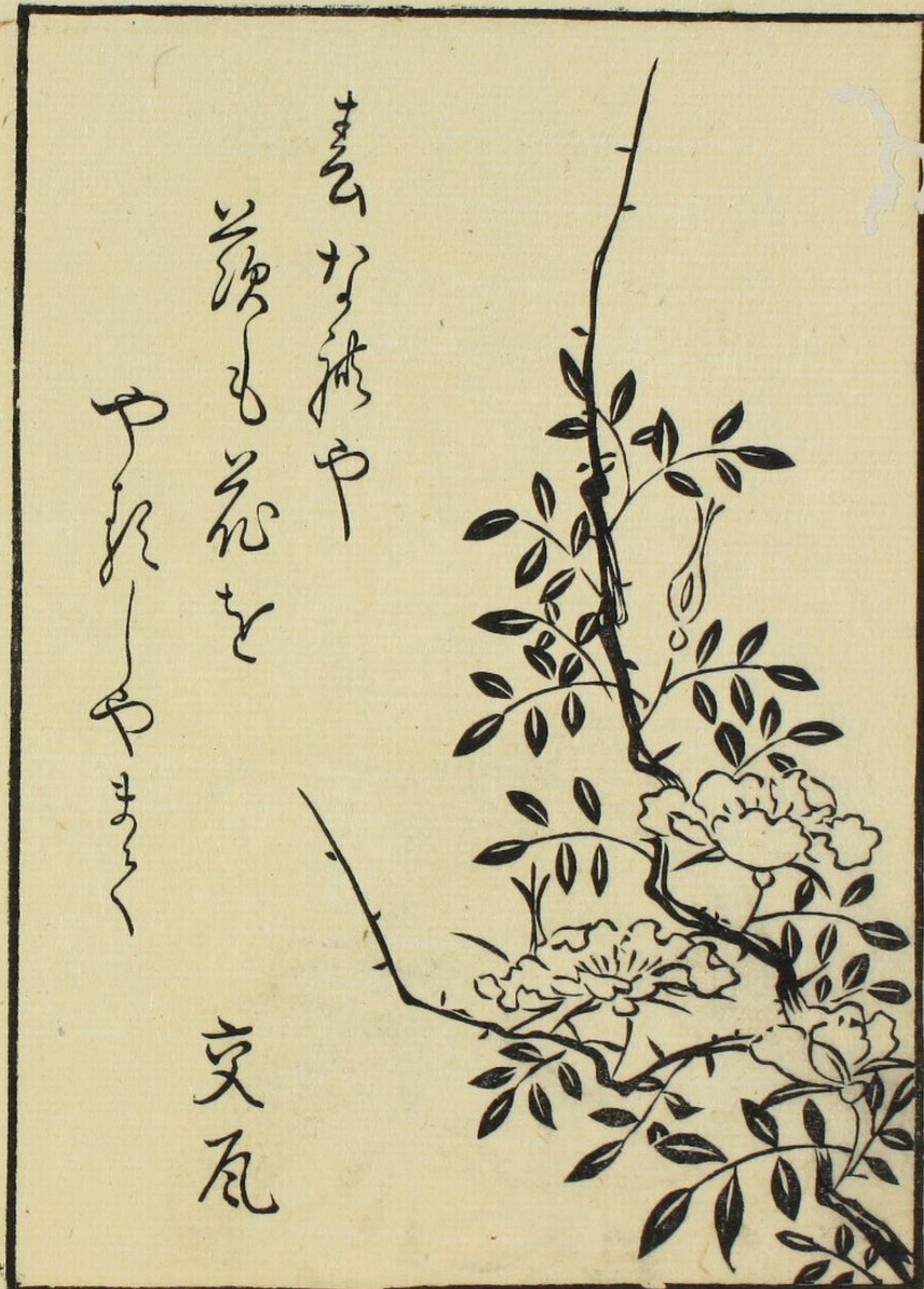


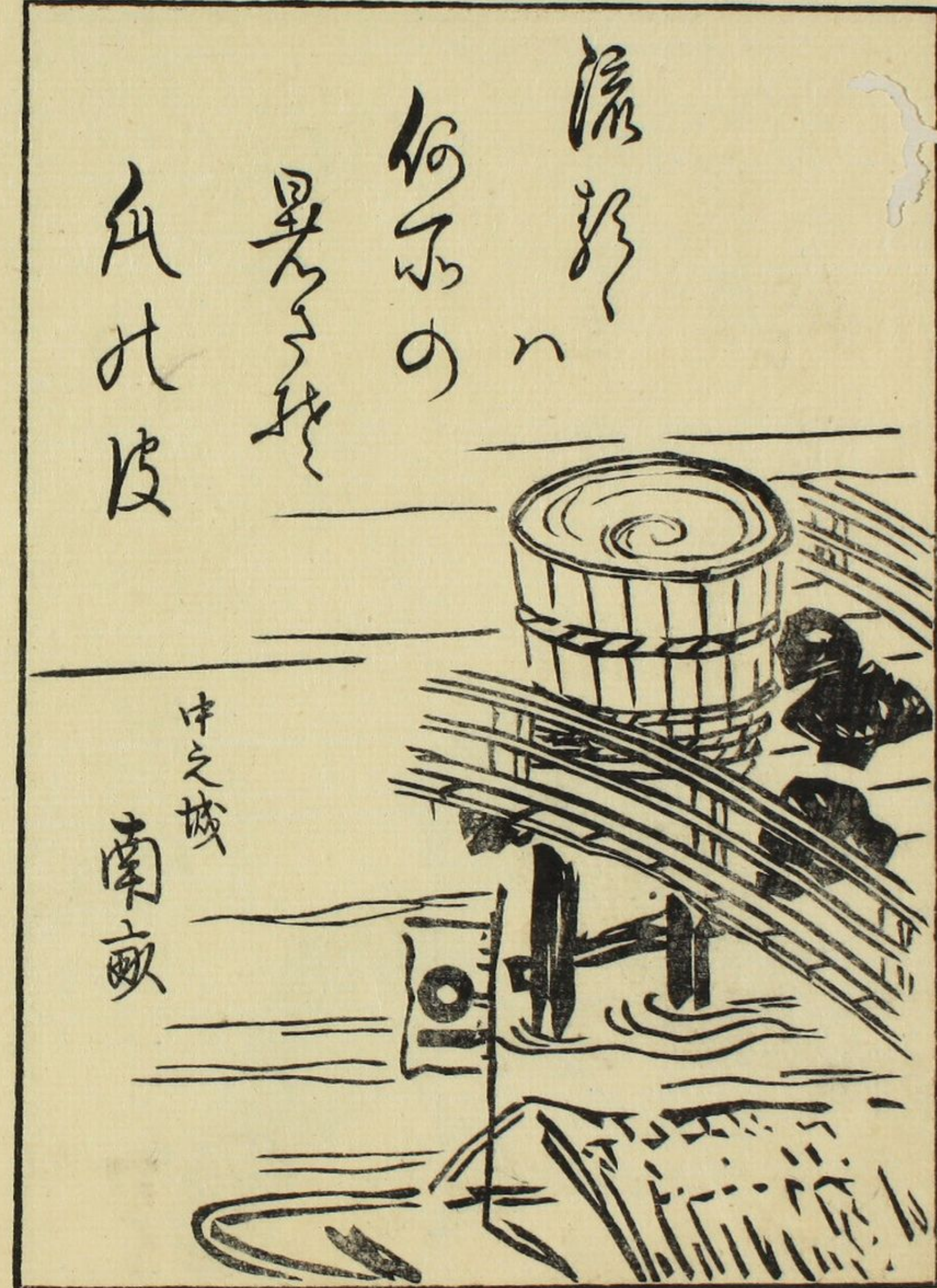
梅咲や棠ハ 故光
二階の書院先



市月洞 其然
明き山や
報 小ハ
桃 花
花のまゝ





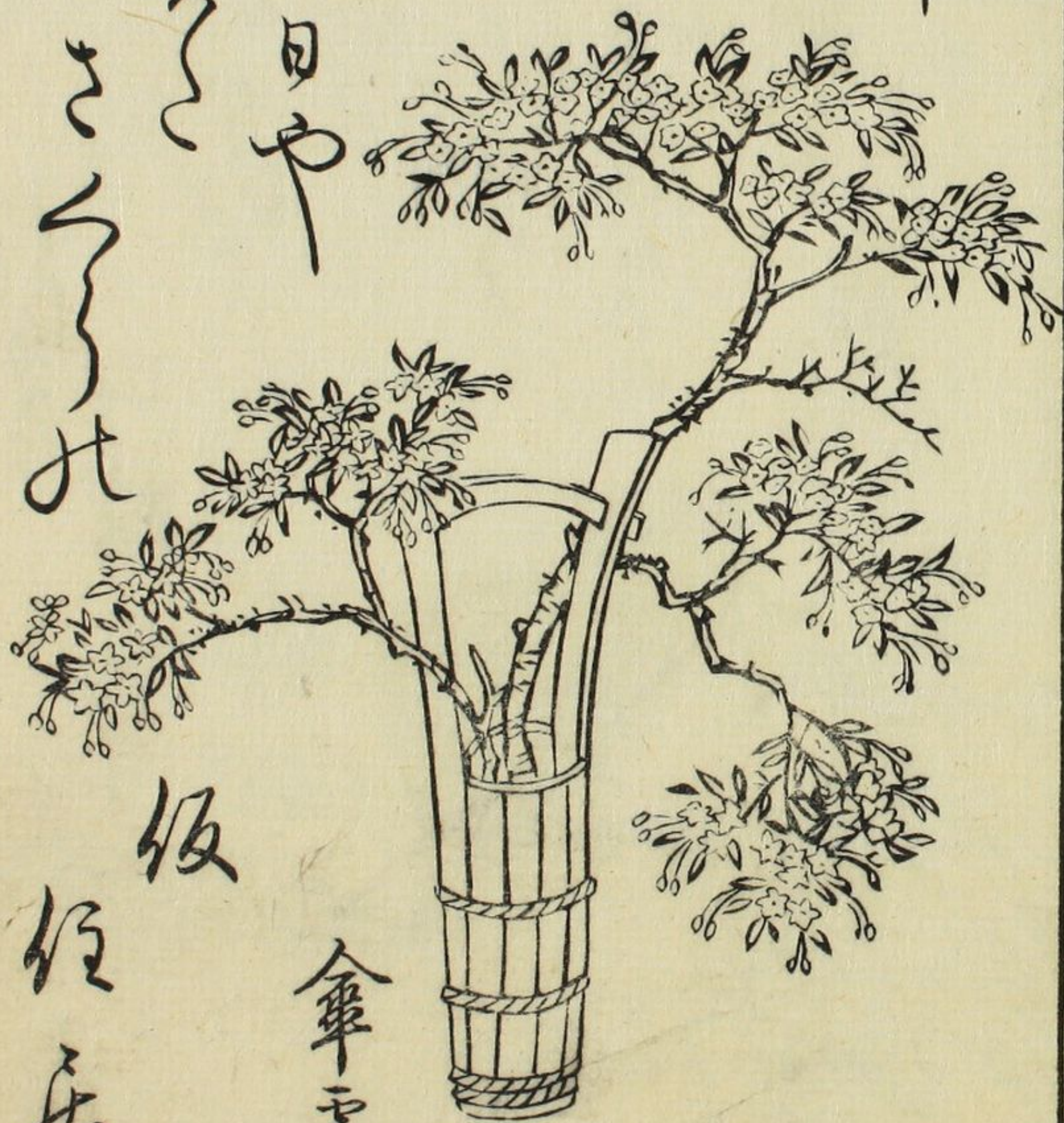


批節

批の日や

さくさく

さくさく



飯

飯

傘系

風中

牛小

はらわら

松の

音

敷川

批節





初平也

雀は其の足ゆり

江別海津如蒙没

如泉

五十六



江別海津

一枝

思いの

年

なうり

なり

錦



いり栗や
肉心
菩薩
外面
鬼

巴田

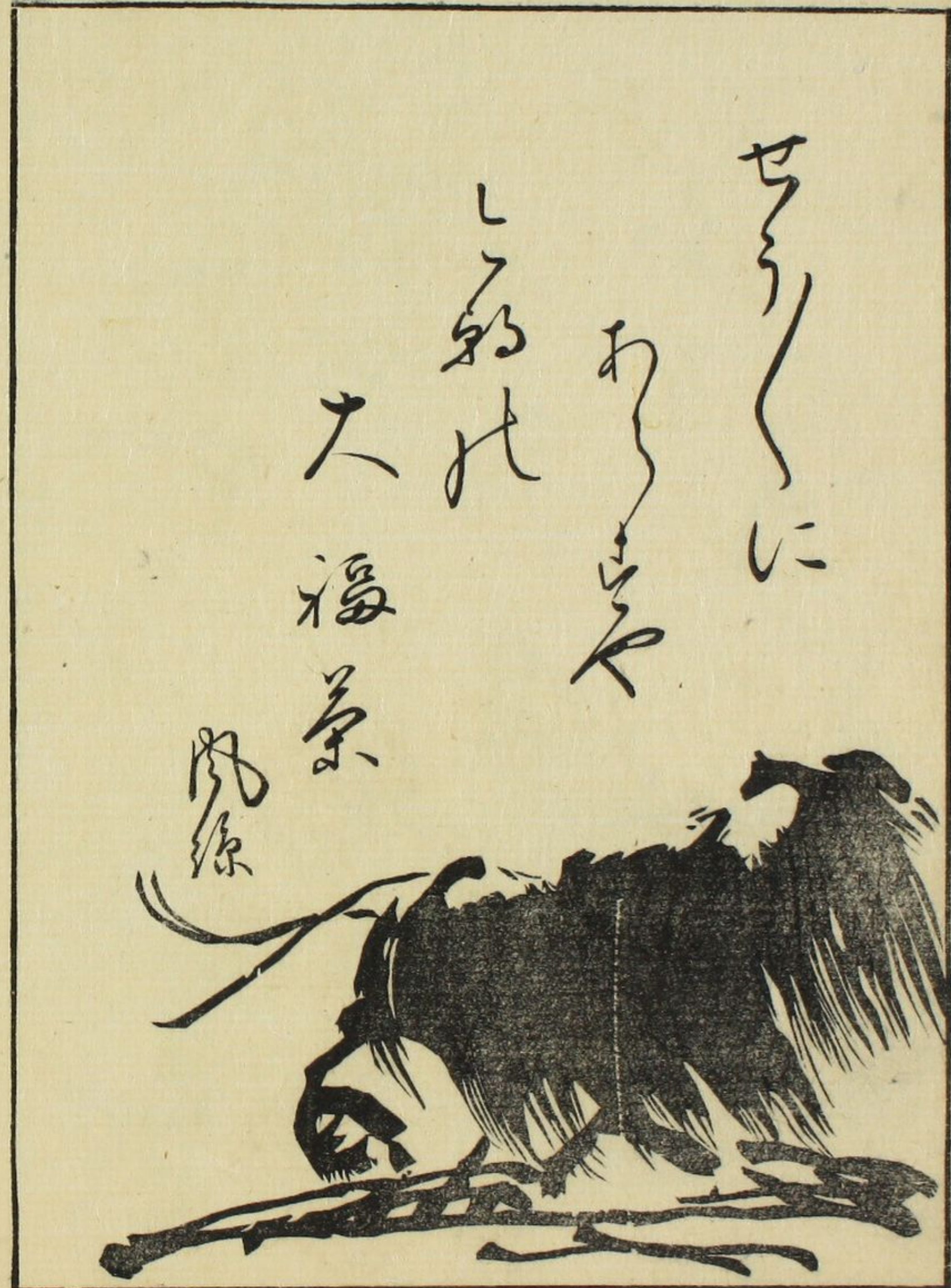


苦熱

新くまの
周たうり

柳
乾

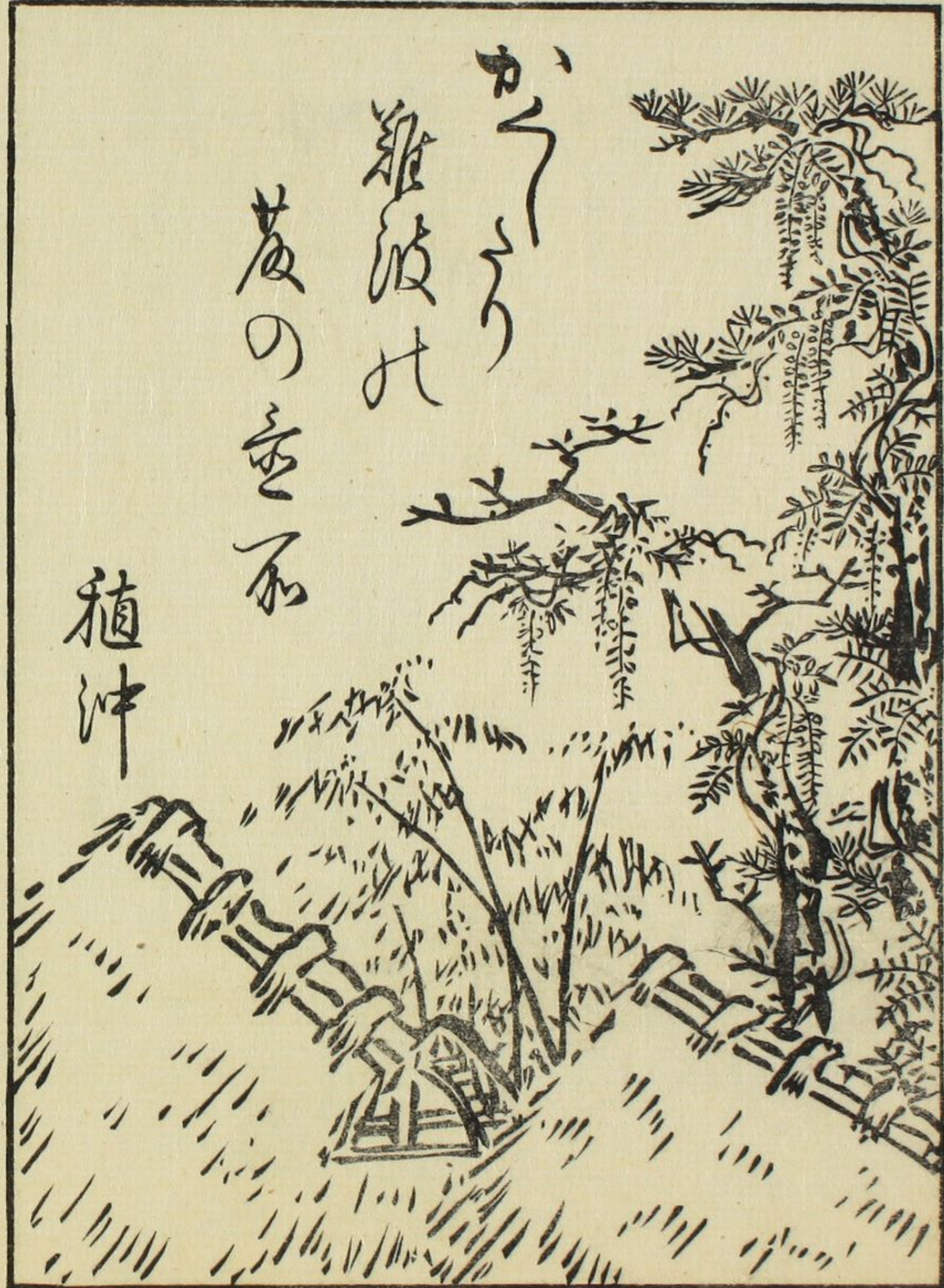
東江閣
竹
砒





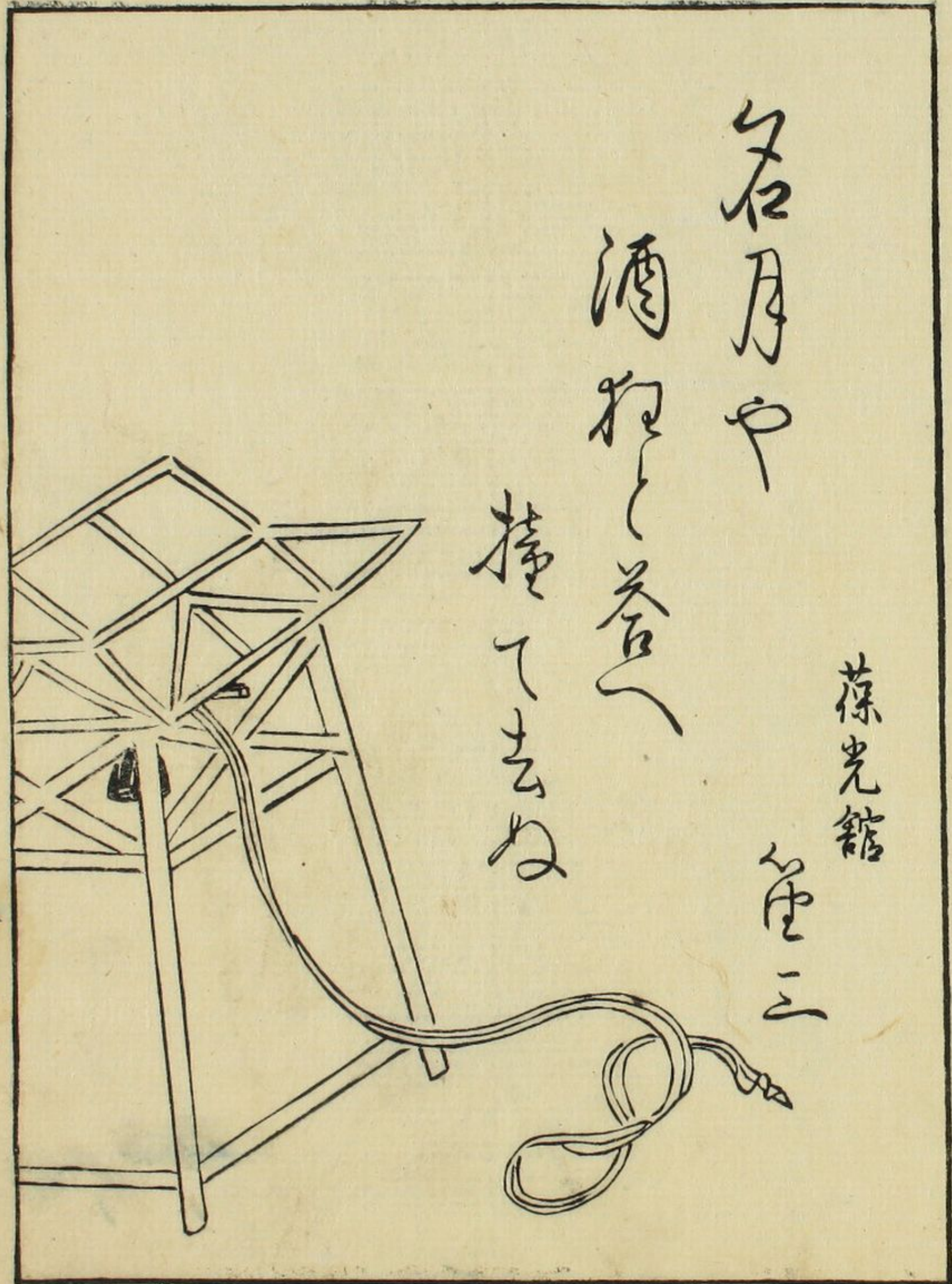
水底へ
届りて
鴨の足

雙魚画



かろ
雑波れ
夏の意不

植沖



名月也

酒杯と茶盃

持て去ぬ

葆光館

巻二

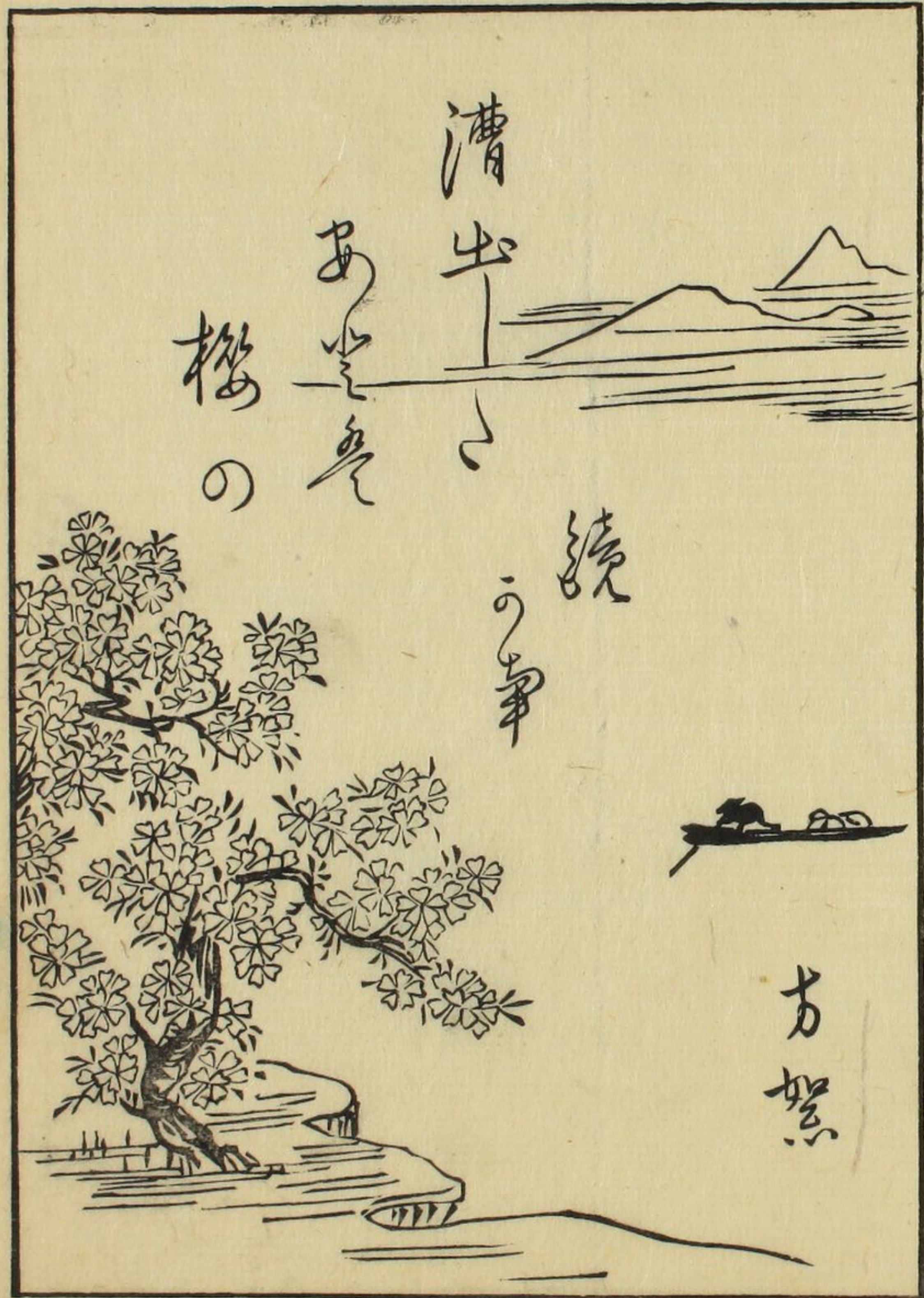


通照也

撥しきり

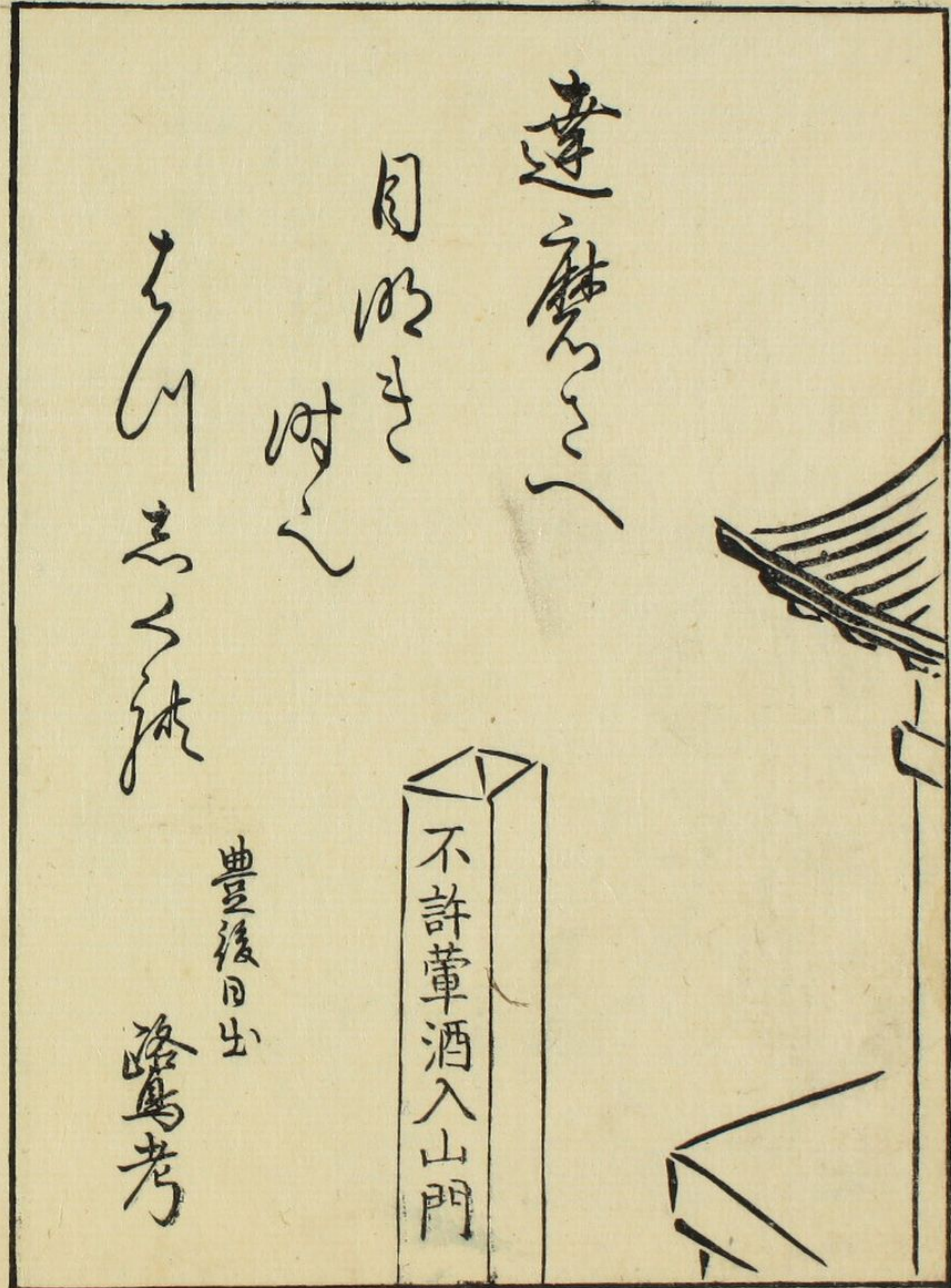
きり

去旭也



清中
 あまを
 桜の
 鏡
 の
 事

方繁



遠之夢

月明き

時し

さし
志之鏡

不許葦酒入山門

豊後日出

路馬考

藉鞭之餘 菑萸揭車於草 榿
 楠豫章於木 形殊而色異也
 非品非圖 則何以瞭臭味於
 指掌之間 擇而不精 語而不
 詳 則安在子品之圖之也 諧
 之爲道也 尚矣 作者徃々流
 徵刻羽形 殊而色異也 不啻



仲殊

清光

名月や

おもしろ

いーの

婆東

若蓄莢揭車榘楠豫章於草
木而已歆驅諸一赭鞭其難
哉其然氏雄于諧者也嘗摘
諸家之英疏之品繫之圖能
精且詳勒爲一編問名於所
謂師者師曰赭鞭以臨哉既
已名之亦冠之以言波及予

予曰我也不敏於諧寧贅乎
將冗乎其何言之有

蜜曆丁丑冬

武田宴山識



